

平成 29 年度

事業報告書(案)および 決算報告書(案)

平成 29 年 4 月 1 日から
平成 30 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 日本ソフトテニス連盟

【目次】

○事業報告

I. ソフトテニスの普及振興事業

1 ソフトテニス競技規則等の制定事業	1
2 全日本ソフトテニス選手権大会等開催	1～3
3 地域ソフトテニス大会支援	3
4 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援	3～4
5 ソフトテニスの広報活動	4～5
6 ソフトテニスの表彰・顕彰	5～16
7 ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業	17
8 ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業	17～18
9 ソフトテニス用具・用品、施設の公認	18

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1 ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査	19～24
2 ソフトテニスの指導者育成	24～25

III. ソフトテニスの国際振興事業

1 ソフトテニスの国際振興	25～26
---------------	-------

[各事業を推進するための組織と財政の強化]

1. 組織と財政の強化	27
1 組織と財政の強化の推進	27
2 環境と教育への取組み	27
3 会員登録制度の推進	27～28
4 暴力行為の根絶	28
5 長期基本計画 2017 の推進	28

(庶務事項)

1 評議員会に関する事項	28
2 理事会に関する事項	29～30
3 業務執行会議に関する事項	30～31
4 専門委員会等に関する事項	31～33
5 役員・事務局職員に関する事項	34～38
6 会員登録に関する事項	39
7 分担金に関する事項	39～40
8 補助金・助成金等に関する事項	41
9 寄付金・協賛金に関する事項	41～42
10 傷害補償制度の給付金に関する事項	42

別表 1～4 (大会一覧表・技術等級認定実績・公認審判員認定実績・会員登録実績)	43～49
--	-------

○決算報告書

1. 財務諸表等

(1) 貸借対照表	50
(2) 正味財産増減計算書	51
(3) 正味財産増減計算書内訳表	52～53
(4) 財務諸表の注記	54～55
(5) 附属明細書	56
(6) 財産目録	57
独立監査人の監査報告書	58～59
監査報告書	60

1 事業報告

本連盟は、昭和 58 年（1983 年度）以来、ソフトテニスの抱える現状や課題に対応すると共に、ソフトテニスの一層の普及振興を図るため、将来像の基本となる方向性を示す長期基本計画を策定し、その方針に沿って総合的かつ計画的に事業推進に取り組んできた。日本で生まれたソフトテニスの世界に誇れる格調高いスポーツとして一層の発展を遂げるべく事業を推進した。

平成 29 年度は「夢膨らむソフトテニス」をスローガンとした「ソフトテニス長期基本計画 2017」の初年度であり、事業遂行にあたっては公益財団法人としての高い社会的信用を維持するべく、ソフトテニスの普及振興、国民の心身の健全な発展への寄与を目的とし、諸事業を積極的かつ効果的に実施した。

I. ソフトテニスの普及振興事業

1. ソフトテニス競技規則等の制定事業

(1) ソフトテニス競技が明朗で円滑・公正に、また安全で楽しく競技できるように、競技規則、審判規則、大会運営規則等を見直し検討を重ねた。今後さらに検討を重ね、競技規則、審判規則、大会運営規則やジュニア審判マニュアルに反映を図りたい。

① 競技規則の改訂

テニスとソフトテニスのアウトコートの一覧表をまとめ、改訂に向け ASTF へ提出した。

② ジュニア審判マニュアル(低学年用)の活用

小学校低学年にルールを理解を推進するために、ソフトテニス「ルール(きまり)とマッチ(試合)の進め方」をホームページに掲載し、活用を図った。

③ 審判検定会・研修会等の開催

審判検定会・研修会等での講習内容の統一と審判員のさらなる資質の向上を図った。

④ ソフトテニスハンドブックの販売および講習会におけるジュニア審判マニュアルの配布を行った。

(2) アジア連盟加盟国・地域会議(北九州国際会議場)におけるレフェリーセミナーに講師を派遣し、国際競技規則の理解を深め、また、英語版審判技術マニュアル(DVD)等を活用して、審判技術の向上に努めた。あわせてソフトテニス「ルール(きまり)とマッチ(試合)の進め方」の英語版を配布して国際普及の推進を図った。

2. 全日本ソフトテニス選手権大会等開催

(1) 国内競技会を大会実施要項に基づき実施した。

① 平成29年度大会日程および会場(別表 43～46 ページ)により実施

② 国民体育大会種別参加チーム数の改訂

種別参加チーム数のローテーションを実施した。

(2) 大会の検討と大会運営の改善

① シニア 45 男女の全日本社会人選手権大会への移行を検討した。

平成 30 年度より、シニア 45 男女を全日本社会人選手権大会に移行して社会人 45 才種別として実施することとした。

② 新規全日本大会の検討

全日本団体選手権大会および全日本ミックスダブルス選手権大会の開催について検討した。

③ JOC ジュニアオリンピックカップ大会/全日本ジュニア選手権大会

・荒天のためダブルスは実施できなかった。

④ 全日本シングルス選手権大会

・参加枠を一部変更し、実施した。

⑤ 日本スポーツマスターズの充実

・参加者の負担軽減等を考慮し、下記のように開催した。参加都道府県は平成 28 年度の 27 より、平成 29 年度は 39 に増加した。

ア. 3日間から2日間開催に変更した。

イ. 参加都道府県への150, 000円の助成金を継続実施した。

⑥ 大会参加申込システムの活用

・都道府県連盟および日本学生連盟(以下、支部)の大会における参加申込へのシステム活用を推進し、支部の事務負担軽減と効率化を図った。平成 29 年度の導入は 22 支部となった。

⑦ 主催大会開催支援

・主催大会を主管し、実質的に運営している支部の運営状況等を的確に把握し、大会が円滑に運営されるように支援した。

⑧ 競技、審判、広報等大会運営マニュアルの活用

・大会運営マニュアルの活用を呼びかけ、円滑な大会運営と日本連盟と主管支部の大会開催にあたっての役割分担の明確化を図った。

⑨ ゼッケンの体裁変更

・ゼッケンの文字規格を、「特太ゴシック体」から「ゴシック体(太文字)」に変更した。

⑩ 簡易得点板の設置

・日本連盟主催大会における簡易得点板の利用推進を図った。

⑪ 大会審判のワッペン着用の義務化

・大会時に審判を行う際にワッペンを左胸に着用させ、審判員の意識向上を図った。

⑫ 日本スポーツ振興センターの助成事業として以下の大会を実施した。

ア. JOC ジュニアオリンピックカップ大会/全日本ジュニア選手権大会

助成金 1, 105, 000 円

3. 地域ソフトテニス大会支援

(1) 地域等における競技会開催に、次のとおり補助を行った。

- ① 全日本大学選手権大会 1,000,000 円
- ② 全日本高校選手権大会 1,000,000 円
- ③ 全国中学校大会 1,000,000 円
- ④ 東日本選手権大会 500,000 円
- ⑤ 西日本選手権大会 500,000 円
- ⑥ 全日本学生インドア大会 500,000 円
- ⑦ 全日本学生王座決定戦 500,000 円
- ⑧ 全日本レディース大会（個人戦） 500,000 円
- ⑨ 全日本レディース決勝大会 500,000 円
- ⑩ ハイスクールジャパンカップ 300,000 円
- ⑪ 9 地区選手権大会 9 地区×200,000 円
- ⑫ 地区高校選抜大会 9 地区×100,000 円
- ⑬ 地区中学選手権大会 9 地区×100,000 円
- ⑭ 全日本シニア東西対抗大会 400,000 円
- ⑮ 全日本学生同好会大会 200,000 円

4. 加盟団体が行うソフトテニスの競技力向上と普及振興支援

(1) 地域グループ育成のため、次の事業を実施した。

① 地域クラブ・ジュニアクラブ等の育成

- ・地域クラブ、ジュニアクラブ等の育成の充実を図ることを目的として、各支部に対し会員登録料から下記の率により助成した。

（一般 20%、高校生 10%、高専 10%、中学生 20%、小学生 50%）

② 支部中学校大会への補助

- ・46 都道府県×@30,000 円を助成した。

③ 支部小学生大会への補助

- ・46 都道府県×@30,000 円を助成した。

④ ソフトテニス週間の実施

- ・10 月の体育の日（月）を中心とした週（金曜日から木曜日）をソフトテニス週間として定め、全国で一斉にソフトテニスを楽しみアピールした。

45 都道府県×@100,000 円を助成した。（継続）

⑤ ソフトテニス愛好者増加対策

- ・中学校部活動引退後の練習場所を確保し、引退後もプレーできる環境の提供事業、またレディースを含めた社会人を対象として都道府県連盟が実施する愛好者増加対策事業を支援した。

46 都道府県×@150,000 円を助成した。(継続)

- ・本連盟および加盟団体の指導者研修事業等で、日本連盟で作成した指導教本(DVD BOOK)を活用して研修会・講習会を実施した。指導者に指導法を提供し、愛好者の指導に貢献、協力してもらった。
- ・映画「案山子とラケット」の製作事業者が作成したDVD&ブルーレイを紹介し、愛好者の増加を図った。

⑥ 指導者バンク（地域）の活用促進

- ・地域の有資格指導者の競技者育成プログラム(Step-1、2)への関わり方および指導者の活用方法を検討した。

⑦ 傷害補償制度の徹底

- ・評議員会や各種会議、ホームページ等で制度を広く伝え制度活用の推進を図った。受傷者に対し給付金の支払いを実施した。

5. ソフトテニスの広報活動

(1) メディア対策

- ・話題性のある広報を積極的に行うためにどうすべきかとの観点より、事業実施前の資料提供を積極的に行った。
- ・新聞報道対応マニュアルを活用した。
- ・平成 13 年から継続している全日本選手権大会のNHKテレビ放送を 17 回連続実現した。
- ・各種メディアへのソフトテニスに関する広報を行った。

(2) ホームページの充実

- ・日本連盟ホームページに大会情報、大会結果等の迅速な掲載を行った。
- ・日本連盟テレビ局及び各支部テレビ局の映像を通して、積極的な動画配信の広報活動を展開した。
- ・過去の日本連盟主催大会の映像が、いつでも見られるように動画ライブラリーを推進し効果的広報を展開した。
- ・日本連盟ホームページ(英語版)を活用し、海外に向けて積極的に情報発信した。

(3) 広報誌発行

① 機関誌「ソフトテニス」の毎月発行

- ・内容の充実と購読者募集を行った。

購読者数	支部購読	1,197 名	個人購読	197 名
(平成 28 年度)	支部購読	1,234 名	個人購読	226 名

② 会員報を年 2 回発行した。

③ 平成 29 年大会記録集を作成し、支部・報道機関等へ配布した。

(4) 「ソフトテニスの歌」の活用

- ・日本連盟主催事業での活用と、全国各地域での普及を図った。
- ・ソフトテニスの歌「ウイニングショット」、ソフトテニス応援歌「青空背負って」の活用を

呼びかけた。

(5) ソフトテニスのアピールと周知

- ① ソフトテニスの映画「案山子とラケット」の非劇場上映への案内を行った。
- ② ソフトテニスの指導教本 (DVD BOOK) や漫画を通しての普及活動を行った。
 - ・ 映画とともにソフトテニスを広くアピールするために作成した指導教本 (DVD BOOK) ・ 漫画の全国 1,500 の書店を通しての販売を継続し、ソフトテニスの普及活動に努めた。
- ③ マスコットキャラクター「そふていー」によるソフトテニスのアピール
 - ・ 小学生の大会およびその他の大会等に登場させ、ソフトテニスを広くアピールした。

(6) 全国広報担当者会議の開催

- ① 平成 30 年 3 月 24 日に大阪アカデミアにて全国広報担当者会議を開催し、新たな広報活動の推進を図った。
 - ・ 期日 平成 30 年 3 月 24 日 (土)
 - ・ 会場 大阪アカデミア 研修室
 - ・ 参加数 計 85 名 (日本連盟 7 名、各加盟団体からの参加者 78 名)

6. ソフトテニスの表彰・顕彰

平成 29 年 12 月 2 日の評議員会に先立ち、平成 29 年度の表彰式を執り行い 92 名の個人及び 40 団体の受賞に対して、支部功労者を代表して金子知行氏 (千葉県) および木所一典氏 (栃木県)、優良団体の中から今帰仁クラブ (沖縄県) の代理として宮城正彦評議員、優秀監督を代表して野口英一氏 (文化学園大学杉並高校)、最優秀選手およびランキング選手を代表して林田リコ選手および宮下こころ選手 (文化学園大学杉並高校) に安道光二会長から賞状等を授与した。

表彰の内訳は、次のとおりである。

1 支部功労賞	92 名
2 優良団体	40 団体
3 優秀監督	10 名
4 優秀選手	10 名
5 ランキング	464 名
6 日本スポーツ賞	1 チーム (2 名)
7 JOC ジュニアオリンピックカップ	2 名

[表彰者名簿]

1. 支部功労者 別紙参照
2. 優良団体 別紙参照
3. 優秀監督

最優秀監督	実業団	男子	堀 晃大 (NTT西日本)
		女子	松口 友也 (ヨネックス)
	大 学	男子	小野寺 剛 (早稲田大学)
		女子	武田 博子 (東京女子体育大学)
	高 校	男子	白幡 光 (羽黒高校)
		女子	野口 英一 (文化学園大学杉並高校)
	中 学	男子	杉山 寛 (杉戸町立杉戸中学校)
		女子	後藤 明弘 (山陽女子中学校)
	小学生	男子	花園 安紀 (東京都)
		女子	中田 克哉 (兵庫県)
優秀監督	実業団	男子	中村 謙 (ヨネックス)
		女子	大槻 三喜 (ダンロップ)
	大 学	男子	櫻井 智明 (明治大学)
		女子	小野寺 剛 (早稲田大学)
	高 校	男子	紙森 隆弘 (高田商業高校)
		女子	新本 弘司 (広島修道大学附属鈴峯女子高校)
	中 学	男子	松田 裕介 (川口市立芝東中学校)
		女子	中田 賢司 (広島修道大学附属鈴峯女子中学校)
	小学生	男子	根岸 邦治 (大阪府)
		女子	花園 智弘 (東京都)

4. 優秀選手

最優秀選手	男 子	水澤悠太 (NTT西日本)
		村上雄人 (NTT西日本)
	女 子	林田リコ (文化学園大学杉並高校)
		宮下こころ (文化学園大学杉並高校)
優秀選手	男 子	丸中大明 (NTT西日本)
		長江光一 (NTT西日本)
	女 子	徳川愛実 (ヨネックス)
		黒木瑠璃華 (ヨネックス)
敢闘選手	男 子	本倉健太郎 (明治大学)
		丸山海斗 (明治大学)
	女 子	高橋乃愛 (どんぐり北広島)
		半谷美咲 (どんぐり北広島)

- 小谷菜津美 (ダンロップ)
大槻麗 (ダンロップ)
5. ランキング選手 別紙参照
6. 国際大会入賞者 別紙参照
7. 日本スポーツ賞 林田リコ・宮下こころペア (文化学園大学杉並高校)
8. JOC ジュニアオリンピックカップ 最優秀選手 男子 内本隆文 (早稲田大学)
女子 貝瀬ほのか (ヨネックス)

平成29年度 支部功労者・優良団体

	支部名	支部功労者	支部功労者	優良団体
1	北海道	高橋 克司	丸 正 孝	留萌ソフトテニス協会
2	青 森	坂下 タカ	大 山 吉 弘	青柳JAPANA
3	岩 手	村松 雅彦	安 藤 綾 二	岩手県高体連ソフトテニス専門部
4	宮 城	早 坂 眞	千 葉 英 明	将監JST
5	秋 田	栲澤 紀久枝	山 本 保 孝	協和ソフトテニススポーツ少年団
6	山 形	石 塚 良 二	梅 津 弘 見	酒田ソフトテニス連盟
7	福 島	熊 坂 雄 延	齋 藤 博 文	西郷村ソフトテニス協会ジュニアクラブ
8	茨 城	関 山 達 朗	石 川 正 幸	常北クラブ
9	栃 木	西 島 啓 介	木 所 一 典	今市ジュニアソフトテニスクラブ
10	群 馬	林 勝 弘	阿 部 恒 雄	碓氷安中ジュニアソフトテニスクラブ
11	埼 玉	栗 原 博	新 井 将 一 郎	さいたま市ソフトテニス連盟
12	千 葉	金 子 知 行	伊 藤 政 利	船橋習志野台クラブ
13	東 京	三 上 貞 一	石 原 重 之	FUJITSU
14	神 奈 川	栗 本 頼 一	吉 田 賢 治	大和庭友会
15	山 梨	海 沼 春 彦	小 林 光 弘	加納岩ジュニアソフトテニスクラブ
16	新 潟	佐 藤 勲	小 林 勉	北越高等学校 ソフトテニス部
17	長 野			
18	富 山	山 森 誠 二	渋 谷 圭 祐	小矢部市ソフトテニス連盟
19	石 川	圓 明 健 有	養 島 真 吾	金沢市ソフトテニス協会
20	福 井	上 屋 敷 淳 三	山 口 一 也	勝山市ソフトテニス連盟
21	静 岡	森 島 光 江	村 中 裕 紀 子	静岡信用金庫 ソフトテニス部
22	愛 知	丹 羽 晃 三	澤 里 利 治	刈谷クラブ
23	三 重	池 地 美 稚 子		
24	岐 阜	伊 藤 要 一	山 上 昭 司	e-NAKA倶楽部
25	滋 賀	浜 口 啓 和	河 瀬 俊 一	NASTA滋賀
26	京 都	新 庄 直		
27	大 阪	堀 内 聡	中 谷 高 子	堺市テニススポーツ少年団
28	兵 庫	高 田 信 昭	川 上 博	須磨学園高等学校
29	奈 良	奥 村 浩 一	田 中 康 之	関西中央高等学校
30	和 歌 山	岡 本 邦 孝	塩 路 芳 基	鹿島ソフトテニスクラブ
31	鳥 取	池 本 正 紀	保 木 本 賢 一	
32	島 根	安 達 京 一		
33	岡 山	岸 根 吉 男	西 山 学	清音ソフトテニスクラブ
34	広 島	名 原 晃	関 口 壽	アクロス広島
35	山 口	松 森 泰 洋	水 本 隆 行	光ソフトテニスクラブ
36	徳 島	猪 本 利 明	森 輝 悦	入田体協
37	香 川	小 泉 勉 一	青 木 昌 三	高松工専クラブ
38	愛 媛	正 岡 義 晶	近 藤 昭 彦	
39	高 知	小 松 浩	花 岡 俊 仁	高知工科大学ソフトテニス部
40	福 岡	川 渕 明 男		
41	佐 賀	日 高 チズ子	手 塚 淳 子	
42	長 崎	馬 場 政 幸	島 津 勇 一 郎	
43	熊 本	山 西 ふじ子	谷 脇 晋	八代市ソフトテニス協会
44	大 分	土 谷 桂 山	狩 生 哲 廣	野津中学校 女子ソフトテニス部
45	宮 崎	西 岡 知 雄	平 原 幸 典	清武ジュニアソフトテニススポーツ少年団
46	鹿 児 島	麻 生 和 雄	田 尻 寿	終野ソフトテニスクラブ
47	沖 縄	大 湾 肇		今帰仁クラブ
48	日本学連	下 河 内 稔	田 内 隆	日本大学
49	高体連	八 木 橋 勉	伊 藤 嘉 英	梅村学園三重高等学校男子ソフトテニス部
50	中体連	金 井 讓 二		
	合 計	92名		40団体

平成29年度 ソフトテニスランキング

総 合 男 子				総 合 女 子			
1	水澤 悠太 村上 雄人	広島	N T T 西日本	1	林田 リコ 宮下 こころ	東京	文化学園大学杉並高校
2	丸中 大明 長江 光一	広島	N T T 西日本	2	徳川 愛実 黒木 瑠璃華	東京	ヨネックス
3	本倉 健太郎 丸山 海斗	日本学連	明 治 大 学	3	高橋 乃綾 半谷 美咲	広島	どんぐり北広島
4	船水 雄太 林 大喜	広島	N T T 西日本	3	小谷 菜津美 大槻 麗	福島	ダンロップ
5	上网 俊介 広岡 宙	大阪	上 宮 高 校	5	笠井 佑樹 尾上 胡桃	日本学連	日本体育大学
6	安藤 優作 内田 理久	日本学連	早 稲 田 大 学	6	中川 瑞貴 芝崎 百香	東京	ナガセケンコー
7	船水 颯人 上松 俊貴	日本学連	早 稲 田 大 学	7	森田 奈緒 神谷 絵梨奈	東京	ヨネックス
8	岩崎 圭 原 侑輝	広島	N T T 西日本	8	貝瀬 ほのか 黒田 麻衣	東京	ヨネックス
9	篠原 秀典 小林 幸司	東京	日体桜友会 ミズノ	8	西岡 真里華 古田 麻友	日本学連	関西大学
9	増田 健人 九島 一馬	和歌山 大阪	和歌山県庁 ミズノ	8	志牟田 智美 地中 葵	日本学連	神戸松蔭女子学院大学
				8	大井 樹来 吉田 栞里	東京	ヨネックス

平成29年度 ソフトテニスランキング

社 会 人 男 子				社 会 人 女 子			
1	丸 中 大 明 長 江 光 一	広島	N T T 西 日 本	1	小 谷 菜 津 美 大 槻 麗	福島	ダ ン ロ ッ プ
2	水 澤 悠 太 村 上 雄 人	広島	N T T 西 日 本	2	森 田 奈 緒 神 谷 絵 梨 奈	東京	ヨ ネ ッ ク ス
3	船 水 雄 太 林 大 喜	広島	N T T 西 日 本	3	植 田 幸 寿 保 石 井 友 梨	京都	ワ タ キ ュ ー セ イ モ ア
3	岡 本 光 生 加 藤 顕 成	広島	広 島 翔 洋 ク ラ ブ	3	大 羅 夢 真 岡 村 葵	福島	ダ ン ロ ッ プ
5	塩 田 顯 井 口 雄 介	奈良 宮崎	高 商 O B ク ラ ブ スマッシュイグチクラブ	5	若 田 実 友 子 泉 谷 朋 香	兵庫	東 芝 姫 路
5	大 橋 拓 実 後 藤 諒 太	徳島 京都	大 神 子 病 院 ワ タ キ ュ ー セ イ モ ア	5	七 尾 美 咲 石 田 裕 美	京都	ワ タ キ ュ ー セ イ モ ア
5	瀬 口 翔 太 仲 野 聖 矢	愛知	ト ヨ タ 自 動 車	5	成 田 悠 小 林 優 美	愛知	ア ド マ テ ッ ク ス
5	岩 崎 圭 原 侑 輝	広島	N T T 西 日 本	5	中 川 瑞 貴 芝 崎 百 香	東京	ナ ガ セ ケ ン コ ー

成 年 男 子				成 年 女 子			
1	花 田 直 弥 山 田 拓 未	京都 徳島	京 都 市 役 所 大 神 子 病 院	1	竹 田 佳 恵 中 根 治 美	愛知	一 宮 花 ・ 花 岡崎ロングロングクラブ
2	吉 川 博 之 足 利 剛 平	山口 岡山	宇 部 興 産 ク ラ レ 岡 山	2	岡 夕 香 高 向 美 佐	岡山 熊本	ク ラ レ 岡 山 宇 土 ク ラ ブ
3	高 山 泰 英 高 山 知 之	石川	兼 六 ク ラ ブ	3	浦 川 真 紀 前 田 ひ と み	熊本	宇 土 ク ラ ブ ア タ ッ ク ク ラ ブ
3	岩 永 淳 奥 村 陸 矢	広島 福岡	N T T 西 日 本 中 国 綾 小 路 ク ラ ブ	3	福 田 江 里 子 林 美 穂	福岡	久 留 米 ク ラ ブ ス ポ ー ツ ア イ ラ ン ド

シ ニ ア 男 子 4 5				シ ニ ア 女 子 4 5			
1	石 橋 孝 一 橋 本 康 徳	京都	京 都 市 役 所	1	中 辻 孝 子 青 山 裕 子	大阪 奈良	K E N K O T ・ M ク ラ ブ
2	吉 末 尚 之 田 中 完 二	東京	世 田 谷 テ ニ ス	2	宮 尾 真 由 美 花 園 安 紀	埼玉 東京	所 沢 ペ ア ー ト 杉 並 文 化 ク ラ ブ
3	中 島 通 晴 枝 村 賢 美	静岡	浜 松 市 役 所	3	中 村 早 智 山 下 由 香	大阪 高知	大 阪 O B 軟 庭 会 土 佐 レ デ ィ ー ス
3	片 峯 俊 和 篠 原 和 彦	福岡	T O T O	3	五 十 嵐 美 智 恵 米 沢 優 美 子	新潟 石川	燕 テ ニ ス ク ラ ブ ふ た ば ク ラ ブ

平成29年度 ソフトテニスランキング

シ ニ ア 男 子 5 0				シ ニ ア 女 子 5 0			
1	千野 一也 堀越 晴夫	東京	たちばなクラブ 板橋ソフトテニス倶楽部	1	村岡 恵子 佐野 るり子	東京	杉並文化クラブ
2	村瀬 充 仙福 和茂	埼玉	川口 I S C やまぼうしクラブ	2	東 純子 宮崎 由佳子	兵庫 大阪	今津クラブ R I S E
3	濱田 正一 堀江 正純	和歌山	教友クラブ	3	近藤 通江 佐々木 あゆみ	愛知	岡崎バード
3	河合 徹 籠野 浩史	岐阜 愛知	多治見クラブ 葵クラブ	3	染谷 啓子 拜原 みゆき	千葉 宮城	小金原ソフトテニスクラブ ウィナークラブ

シ ニ ア 男 子 5 5				シ ニ ア 女 子 5 5			
1	富澤 裕次郎 蒨 政弘	福井 福岡	ウィルベリーズ サンデークラブ	1	大谷 美佐 木下 之美	徳島 和歌山	阿南クラブ ゆうがクラブ
2	古賀 数則 花村 文二	鹿児島 福岡	日曜クラブ 田川ソフトテニス連盟	2	近藤 貴予 落合 千春	東京	武蔵野クラブ 台東グリーンテニスクラブ
3	梶原 茂徳 磯部 雅宏	東京	JR東日本東京 BLUE TAKAX	3	浦 みどり 村瀬 里美	兵庫	今津クラブ 東芝ホーミィクラブ
3	大塚 喜彦 玉岡 良仁	兵庫 京都	神戸山手クラブ 京都市役所	3	鈴木 明美 牧野 京子	新潟 埼玉	長岡レモンクラブ 川口クラブ

シ ニ ア 男 子 6 0				シ ニ ア 女 子 6 0			
1	篠邊 保 石川 雅利	愛知 千葉	桜田クラブ 市川ソフトテニスクラブ	1	増田 加奈 神野 弓子	愛知	岡崎バード すみれクラブ
2	谷本 優 小森 稔信	大阪	大阪OB軟庭会 堺ソフトテニス連盟	2	江利角 富美子 安達 伸子	大分	スポーツマンシップ
3	松舟 智明 大川 尚洋	愛知	ウイングクラブ	3	清水 さかゑ 井上 光子	千葉	市原ドリーム 北柏ライフタウンテニスクラブ
3	吉岡 和幸 兼田 忠啓	新潟	糸魚川テニスクラブ 中条クラブ	3	大丸 美秋 中原 孝子	広島	がんばろう会

シ ニ ア 男 子 6 5				シ ニ ア 女 子 6 5			
1	袴田 文雄 菅野 勝郎	秋田 岩手	能代支部 陸前高田市ソフトテニス協会	1	尾張 由美 岩原 慶子	愛知	岡崎レディスソフトテニスクラブ
2	桐 貴文 田原 美成	山梨	山梨シニアクラブ 韭崎市ソフトテニス連盟	2	竹下 美智子 祖田 昭代	岡山 大分	プロシード 津久見
3	野村 俊夫 南出 英正	和歌山	青葉クラブ 和歌山忠友クラブ	3	大井 多恵 阿部 新子	愛知	森林クラブ
3	石田 秀明 松本 登志雄	静岡	富士宮市役所 大成クラブ	3	川田 宏江 岡村 信子	兵庫	すずらんクラブ 東神戸テニスクラブ

平成29年度 ソフトテニスランキング

シニア男子70				シニア女子70			
1	木藤勝敏 熊田章甫	大阪 岐阜	大阪OB軟庭会 TEAM KUMA	1	小谷苑子 高野春子	東京 群馬	葛飾クラブ 前橋クラブ
2	石川延房 岩本義久	静岡	富士ファミリーソフトテニスクラブ 静岡クラブ	2	吉田芳子 木下美江	鳥取	カナダホーム 湊山クラブ
3	石崎和義 宝力良允	神奈川	横浜市役所 逗子開成軟式庭球部O. B会	3	武内美佐子 岩佐照代	大阪 兵庫	高槻クラブ 東灘クラブ
3	吉田真一 青木正	茨城	磯原ソフトテニスクラブ 日立SST	3	服部京子 渡辺伸江	愛知	すみれクラブ

シニア男子75				シニア女子75			
1	小林秀男 野地光明	山梨 神奈川	山梨シニアクラブ 日本スポーツマンズクラブ	1	高羽邦子 山田悦子	大阪	堺ミルフィーズ 東大阪アミー
2	望月幹夫 木地孝嘉	埼玉 愛知	浦和フレンドリー 七宝町ソフトテニス	2	田中光子 稲垣節子	愛知	葵クラブ
3	青木東平 手塚進	神奈川 千葉	金剛寺クラブ 貝塚中央クラブ	3	高田佐起子 岩切典子	東京	チームNARO 町田支部
3	岩島典男 高橋邦彦	千葉 埼玉	中台テニスクラブ 上福岡テニスクラブ	3	喜利ミナ子 加藤鈴子	京都	洛西クラブ E. F. Tクラブ

シニア男子80				シニア女子80			
1	森本弘祐 住司英雄	千葉	湖北台ソフトテニスクラブ ときわ平クラブ	1	大久保初子 関寿子	愛知 東京	すみれクラブ 寿美礼クラブ
2	若林博之 中野雅文	兵庫	三木クラブ 宝塚クラブ	2	福田久恵 住友康江	大阪 兵庫	枚方市ソフトテニス連盟 すずらんクラブ
3	佐藤充 鶴亦雄	大阪 長崎	大正クラブ 大村市協会	3	赤堀妙子 村岡良子	愛知 山口	すみれクラブ 長門大津クラブ
3	栗田舜二 荻窪武晴	神奈川	金剛寺クラブ あしがら21	3	湯原藤江 星野弘子	神奈川	港北軟庭会 ひまわりレディースクラブ

シニア混合45				シニア混合50			
1	加藤敏治 松嶋晴美	愛知	(株)デンソー 豊田クラブ	1	錦野充宏 宮崎由佳子	大阪	吹田クラブ RISE
2	濱田英明 花園安紀	東京	練馬ソフトテニス 杉並文化クラブ	2	畔柳昌己 樋口紀代美	石川 静岡	野々市クラブ 下田市ソフトテニス協会
3	榊原雄司 坂本一美	石川	兼六クラブ	3	片桐浩子 依田教夫	長野	佐久STA 長野STA
3	岡夕香 杉山忍	岡山	クラレ岡山 しらかべクラブ	3	深津弘樹 平形明美	愛知	みよし市役所 西尾ソフトテニス協会

平成29年度 ソフトテニスランキング

シニア混合 55				シニア混合 60			
1	大谷美佐 谷本満裕	徳島	阿南クラブ 大神子病院	1	新開均 伴戸明己	徳島 北海道	永遠クラブ 札幌白石クラブ
2	太田孝史 野口弘美	神奈川	北相ソフトテニスクラブ あじさいクラブ	2	金子由美 薮政弘	神奈川 福岡	横浜スマイル サンデークラブ
3	中山広子 川野辺武	埼玉	天沼ファミリー 栗橋テニス	3	福谷道明 田村良子	大阪 東京	箕面クラブ 世田谷
3	萩原由美 大野勝敏	東京 埼玉	杉並文化クラブ 浦和ファミリー	3	吉本安男 津田妙子	北海道	北見ソフトテニス連盟 迷球会

シニア混合 65				シニア混合 70			
1	杉山泰久 中谷順子	埼玉	所沢ペアート	1	蟹江厚佑 富山郁代	愛知	知多ソフトテニス協会 すみれクラブ
2	高橋道子 篠山明	埼玉	所沢ペアート 浦和あづまクラブ	2	齋藤雅子 込山修	愛知	豊田なでしこ 千種クラブ
3	沼田義雄 沼田ムツ子	熊本	宇土クラブ	3	岩本義久 長谷川三世子	静岡	静岡園クラブ 富士宮ソフトテニスクラブ
3	木村実 茂木ゆみ子	大阪	箕面クラブ 茨木クラブ	3	長門忍 横野久美子	愛知	桜クラブ すみれクラブ

ジュニアシングルスU-14 男子				ジュニアシングルスU-14 女子			
1	武市大輝	山口	下松中学校	1	松岡琴美	岡山	山陽女子中学校
2	菊山太陽	和歌山	西和中中学校	2	半田穂乃花	山形	宮内中学校
3	團野佑紀	三重	小俣中学校	3	松橋由依	岩手	北上中学校
3	永江孝二郎	福岡	高田中学校	3	原田美結	北海道	追分中学校

ジュニアシングルスU-17 男子				ジュニアシングルスU-17 女子			
1	林湧太郎	奈良	高田商業高校	1	小林愛美	東京	文化学園大学杉並高校
2	北野亮介	宮城	東北高校	2	井上爽蘭	岡山	山陽女子中学校
3	端山羅行	石川	中能登中学校	3	武市明香里	広島	広島修道大学附属鈴峯女子中学校
3	大友駿	岐阜	中京高校	3	中川利李	山形	宮内中学校

ジュニアシングルスU-20 男子				ジュニアシングルスU-20 女子			
1	内本隆文	日本学連	早稲田大学	1	貝瀬ほのか	東京	ヨネックス
2	北本達己	奈良	高田商業高校	2	宮下こころ	東京	文化学園大学杉並高校
3	阪本峻	奈良	高田商業高校	3	林田リコ	東京	文化学園大学杉並高校
3	根本大地	奈良	高田商業高校	3	笠井菜々子	広島	広島修道院大学付属鈴峯女子高校

※ジュニアダブルスU-14、U-17、U-20については雨天中止のためランキング決定せず

平成29年度 ソフトテニスランキング

男子 シングルス				女子 シングルス			
1	船水 颯人	日本学連	早稲田大学	1	徳川 愛実	東京	ヨネックス
2	長江 光一	広島	N T T 西日本	2	尾上 胡桃	日本学連	日本体育大学
3	増田 健人	和歌山	和歌山県庁	3	平久保 安純	日本学連	早稲田大学
3	船水 雄太	広島	N T T 西日本	3	林田 リコ	東京	文化学園大学杉並高校
5	井口 雄介	宮崎	スマッシュイグチクラブ	5	榎本 有花	広島	どんぐり北広島
5	高倉 和毅	東京	早稲田実業高校	5	貝瀬 ほのか	東京	ヨネックス
5	安藤 優作	日本学連	早稲田大学	5	志牟田 智美	日本学連	神戸松蔭女子学院大学
5	丸中 大明	広島	N T T 西日本	5	生田 遥夏	兵庫	神戸松蔭女子学院大学

大学 男子			大学 女子				
1	本倉 健太郎 丸山 海斗	日本学連	明治大学	1	笠井 佑樹 尾上 胡桃	日本学連	日本体育大学
2	長尾 景陽 松本 倫旺	日本学連	早稲田大学	2	志牟田 智美 地中 葵	日本学連	神戸松蔭女子学院大学
3	内本 隆文 星野 慎平	日本学連	早稲田大学	3	下地 彩可 泰江 佳奈子	日本学連	関西外国語大学
3	三好 悠大 高村 悌紳	日本学連	関西外国語大学	3	羽瀨 沙由里 高杉 梨奈	日本学連	東京女子体育大学
5	谷口 睦 飯田 脩三	日本学連	関西大学	5	齊藤 香純 鈴木 梨沙	日本学連	明治大学
5	丸岡 俊介 金子 大祐	日本学連	明治大学	5	高橋 勅有 西永 りな	日本学連	明治大学
5	中平 慎吾 米澤 要	日本学連	明治大学	5	小山 舞 上原 由佳	日本学連	早稲田大学
5	立木 雅也 平井 裕之	日本学連	明治大学	5	米田 彩乃 坂本 茉梨乃	日本学連	天理大学

平成29年度 ソフトテニスランキング

高 校 男 子			高 校 女 子				
1	阪本峻 林湧太郎	奈良	高田商業高校	1	林田リコ 宮下こころ	東京	文化学園大学杉並高校
2	上岡俊介 広岡宙	大阪	上宮高校	2	原口美咲 久保菜月	福岡	中村学園女子高校
3	山根稔平 根本大地	奈良	高田商業高校	3	小松崎茉代 原島百合香	東京	文化学園大学杉並高校
3	北野亮介 鈴木竜弥	宮城	東北高校	3	上野小町 吉田湊奈	大阪	昇陽高校
5	丸山章 小田龍翔	広島	尾道高校	5	松井玲奈 浦口華音	和歌山	和歌山信愛高校
5	久山隆希 大友駿	岐阜	中京高校	5	原田由文 佐藤未来	宮城	東北高校
5	柘植省吾 村瀬伊織	愛知	岡崎城西高校	5	笠井菜々子 奥田結依	広島	広島修道大学付属鈴峯女子高校
5	花岡忠寿 増田祐太	奈良	高田商業高校	5	竹田真樹 久保晴華	三重	三重高校
9	日下部空良 斎藤紘希	山形	山形中央高校	9	谷川みなみ 坂田華乃子	長崎	大村高校
9	田島知征 高橋悠里	群馬	高崎商業高校	9	遠藤優香 島津佳那	東京	千代田女学園高校
9	大谷陽登 岡崎聡太	三重	三重高校	9	渡邊舞華 渡邊奈々恵	大分	明豊高校
9	松山新 熊本脩吾	和歌山	和歌山北高校	9	神崎一夏 梅原未来	京都	福知山成美高校
9	高橋臣 増田達四郎	北海道	北海道科学大学高校	9	中野舞 今田早紀	岡山	就実高校
9	林民生 新沼舜大	宮城	東北高校	9	高橋紅羽 佐藤日和	北海道	札幌龍谷学園高校
9	水木瑠 福田成海	宮城	東北高校	9	風村佳野 浅井亜海	愛知	豊田大谷高校
9	草野湧凱 坂下耕介	岐阜	中京高校	9	長谷川憂華 立花さくら	岡山	山陽女子高校

平成29年度 ソフトテニスランキング

中 学 男 子				中 学 女 子			
1	幡谷 康平 竹谷 航洋	埼玉	杉戸中学校	1	奥田 妃奈 藤原 麻央	岡山	就実中学校
2	北野 敦貴 星 虎太朗	福島	西郷第一中学校	2	武市 明香里 濱島 怜奈	広島	広島修道大学附属鈴峯女子中学校
3	矢野 颯人 濱田 祐	和歌山	西和中学校	3	徳永 栞波 井上 爽蘭	岡山	山陽女子中学校
3	大村 圭志朗 田中 翔大	大阪	上宮中学校	3	辻 ひまり 石川 奈美	愛知	明祥中学校
5	野田 楓磨 永江 孝二郎	福岡	高田中学校	5	庄司 琴里 井上 あゆ	山形	真室川中学校
5	堀内 駿斗 桑山 信	埼玉	杉戸中学校	5	藤井 七海 西村 光	大阪	昇陽中学校
5	四位 光太 両角 友志	東京	清明学園中学校	5	中川 利李 半田 穂乃花	山形	宮内中学校
5	松本 英士 武市 大輝	山口	下松中学校	5	服部 綾乃 片岡 美紗希	兵庫	和田山中学校

小 学 男 子				小 学 女 子			
1	根岸 濤紋 小泉 瑠唯	埼玉	皆野ジュニア	1	前川 愛生 中谷 さくら	兵庫	明石ジュニアクラブ
2	後藤 優斗 木内 陸人	和歌山	ゆうゆうスポーツクラブ海南 L . C . C .	2	田中 栞 桑木 愛花	栃木	芳賀クラブジュニア
3	小笠原 風太 小島 大輝	静岡	豊田健友ジュニアクラブ	3	高野 鈴奈 高野 蓮奈	東京	日の出ジュニアクラブ
3	中内 謙秀 角谷 泰志	三重	伊勢ジュニアクラブ	3	田中 美和 向畑 奈々未	滋賀	甲賀スポーツ少年団 野洲ジュニアクラブ
5	塚本 星弥 遠藤 功一	愛知	東浦森と川STC	5	西田 瑠菜 野村 文楓	東京	稲城ジュニアクラブ 日の出ジュニアクラブ
5	富山 陽太 峯田 智生	宮崎	飫肥ジュニア 延岡 Kids	5	中村 楓芽 宮前 希帆	福井	三国ジュニアクラブ
5	國松 樹人 國松 巧	新潟	小千谷市ジュニアクラブ	5	前田 梨緒 橋本 咲愛	兵庫	姫路ジュニアクラブ
5	野口 遼 小山 寛晴	埼玉	わかくさ 鳩ヶ谷ジュニア	5	柴田 凜 浜中 陽	京都	福知山ジュニアクラブ

7. ソフトテニスの技術等級・指導員資格認定に関する事業

(1) 技術等級の認定を次のとおり行った。(数値:名)

等級	名誉 指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1級	2級	3級	4級	計
平成29年度	0	0	67	11	346	15	361	1,335	1,640	3,186	6,961
平成28年度	0	0	73	23	335	22	307	1,045	1,551	3,094	6,450

(注) 平成29年度都道府県別認定者数は別表2(P47)に掲載

(数値:名)

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人数	6,527	6,916	6,715	6,812	6,450	6,961

(2) 技術等級システムを活用して認定手続きを行い資格者管理の効率化を図り、大会申込システムと連動して大会参加資格のチェックを行った。

(3) 技術等級資格取得者を増大するため、大会実績による取得の見直しを図った。

8. ソフトテニスの審判員資格認定に関する事業

(1) 公認審判員の認定を次のとおり行った。(数値:名)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
マスター レフェリー		71	41	58	60	78	60
マスター アンパイヤー		46	45	42	70	62	72
1級		232	215	248	284	282	236
2級	一般	9,507	9,380	9,229	10,389	9,920	10,121
	高校	19,665	18,628	20,256	21,331	22,474	22,050
ジュニア		39,746	36,545	39,657	39,321	40,171	35,524
計		66,267	64,854	69,490	71,455	72,987	68,062

(注) 平成29年度都道府県別認定者数は別表3(P48)に掲載

(2) 1級審判員の検定会(参加者:52名)と研修会(参加者:188名)を、次のとおり実施した。

	実施期日	会場	参加者(名)
検定会	平成30年1月20日~21日	東京都・大森スポーツセンター	48
	平成30年2月17日~18日	大阪府・北千里市民体育館	54
研修会	平成29年11月4日	長野県・東郷中央公園第1体育館	15
	平成30年1月21日	山梨県・甲斐市敷島総合文化会館	22
	平成30年1月27日	愛知県・邦和スポーツランド	11
	平成30年1月27日	宮城県・仙台市青葉体育館	36
	平成30年2月11日	長崎県・長崎県立総合体育館	29
	平成30年2月17日	兵庫県・神戸市立科学技術高等学校	27
	平成30年2月25日	鳥取県・どらドラパーク米子市民体育館	36
	平成30年2月25日	高知県・高知県立高知小津高等学校	12

(3) ソフトテニスハンドブック、ジュニア審判マニュアル等を販売ならびに配布した。

(数値：冊数)

年 度	ソフトテニス ハンドブック	採点票	オーダー票	イエロー カード等	ジュニア審判 マニュアル
平成 29 年度	24,383	4,819	879	24,431	32,534
平成 28 年度	25,371	3,908	786	25,419	44,863

(4) 審判員バンク及び派遣審判員制度の確立と研修

審判実技、資質の向上を目指し、下記の事業実施について検討した。

① 全国審判員指導者研修会

審判員のリーダー的人材育成を図ることを目的とし、競技規則、審判規則、大会運営規則等を徹底する研修会の実施について検討した。

② 審判員バンク

審判実技の徹底と資質の向上と、日本連盟主催大会への審判員派遣、及び各加盟団体からの審判員派遣要請に応えることができるよう審判員の確保を図ることを目的とし、審判員バンクの創設に向けさらに検討を重ねた。

(5) 審判技術DVDの活用

審判講習会・研修会等での活用を図っている。

(6) ジュニア審判員普及の促進

- ・小学生高学年と中学生を対象にジュニア審判マニュアルによってルールを理解を図った。
- ・小学生低学年を対象に、ソフトテニス「ルール(きまり)とマッチ(試合)の進め方」によって、ルールの理解と促進を図った。
- ・ジュニア審判員検定会(小学生低学年)講習内容を統一するために使用する資料(パワーポイント)を作成した。

(7) 審判システムの活用と大会参加資格チェック

審判システムの各種チェック機能の改善と、認定手続き及び資格者管理の効率化を検討した。

9. ソフトテニス用具・用品、施設の公認

(1) 愛好者・競技者が安全で快適にプレーができるよう用具・用品、施設の公認に関し、次の事業を行った。

① 以下の追加公認を行った。

株式会社ディーエムアール ユニフォーム

② 更新手続きを承認した。

(P39～P40 (3)維持会費ア.公認メーカー イ.施設業者を参照)

③ ラケットの証紙、ネットの証布を発行した。

(数値：枚)

年 度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
ラケット証紙	431,977	460,146	369,825	429,345	359,560	378,710
ネット証布	3,100	3,400	2,800	2,650	2,700	3,000

II. ソフトテニスの競技力向上事業

1. ソフトテニスの競技力向上、医科学研究調査

(1) 競技力向上

*世界No.1の競技力の維持を目指して次の事業を実施した。

1) 競技者育成プログラムの推進

- 一貫指導システムの構築を図り、競技者育成プログラムを Step1 から Step5 の過程を経て実施することにより、競技力を向上させた。①、②はスポーツ振興くじ助成金の対象事業、③はスポーツ拠点化助成事業として実施。

① Step-1,2 47 都道府県で強化事業を実施した。

(各支部に対して、400,000 円を助成した。)

② Step-3 (U-14・U-17・U-20/男・女) が 8 ブロックで下記のとおり行われ、強化練習会・選考会を実施した。

ブロック名	期 日	参加 選手数	各支部 代表	カテゴリー別 指導者	ブロック 運営委員	データ 管 理	日本連盟 運営委員	日本連盟 強化委員	総 計
北海道・東北(宮城県・仙台市)	9/1～9/3	168	7	28	4	4	3	1	215
関 東 (埼玉県・熊谷市)	9/1～9/3	191	8	32	4	4	2	1	242
北信越 (石川県・小松市)	8/25～27	120	5	20	4	4	2	1	156
東 海 (三重県・四日市市)	8/24～26	96	4	16	3	4	2	1	126
近 畿 (和歌山県・和歌山市)	8/25～27	144	6	24	4	4	2	1	185
中 国 (広島県・三次市)	8/25～27	117	5	20	4	4	2	1	153
四 国 (愛媛県・今治市)	8/25～27	95	4	16	4	4	2	1	126
九 州 (熊本県・熊本市)	8/25～27	189	8	32	4	4	2	1	240
合 計		1,120	47	188	31	32	17	8	1,433

※スポーツ振興くじ助成金の対象事業として 52,640,000 円の助成を受けた。

③ 第 12 回ソフトテニスジュニアジャパンカップ「競技者育成プログラム (Step-4)」を下記のとおり実施した。

期 日：11 月 24 日・27 日 (強化練習会兼選考会)

11 月 25 日～26 日 (第 12 回ジュニアジャパンカップ)

会 場：宮崎市生目の杜運動公園テニスコート・久峰総合運動公園テニスコート

選 手：U-14 (男子：38 名・女子：40 名) 計 78 名

U-17 (男子：40 名・女子：42 名) 計 82 名

U-20 (男子：36 名・女子：33 名) 計 69 名

指 導 者：24 名 (各カテゴリーの男女別に 4 名)

運営委員：129 名

Step-5 全日本 U-14,U-17,U-20 として強化合宿を実施した。

- 一貫指導システム確立のための指導理念、指導法ならびに指導内容を検討した。
- 競技者育成プログラムを推進するために指導マニュアルを活用して推進した。
- 平成 26 年度に作成した指導教本の更なる活用を図った。

2) 日本代表チーム、ナショナルチーム及びアンダーチームの強化合宿

① 日本代表チームおよびナショナルチーム（男子、女子）の強化合宿を次のとおり実施した。

	回数	実施期日	参加者(名)		会場	
			スタッフ	選手		
代表候補	☆①	平成 29 年 6 月 29 日～7 月 4 日	6	24	兵庫県・三木市	
	☆②	平成 29 年 11 月 10 日～15 日	6	25	大阪府・大阪市	
ナショナル	男子	☆①	平成 29 年 4 月 29 日～5 月 4 日	3	16	大阪府・大阪市
		②	平成 30 年 2 月 7 日～12 日	3	14	兵庫県・三木市
		3	平成 30 年 3 月 16 日～21 日	3	14	兵庫県・三木市
	女子	☆①	平成 29 年 4 月 29 日～5 月 4 日	3	18	大阪府・大阪市
		②	平成 30 年 2 月 7 日～12 日	3	15	兵庫県・三木市
		3	平成 30 年 3 月 16 日～21 日	3	15	沖縄県・南城市

② 全日本 U-14.U-17.U-20（男子、女子）強化合宿を次のとおり実施した。

	カテゴリー	実施期日	参加者(名)		会場	
			スタッフ	選手		
男子	U-20	☆1	平成 29 年 6 月 9 日～11 日	2	15	東京都・江東区 埼玉県・所沢市 神奈川県・横浜市
		2	平成 30 年 2 月 20 日～25 日	2	16	三重県・四日市市
	U-17	☆1	平成 29 年 4 月 14 日～19 日	3	20	京都府・宇治市
		②（日韓中 ジュニア代表 チーム）	平成 29 年 8 月 22 日～24 日	3	6	茨城県・笠間市
		3	平成 30 年 2 月 20 日～25 日	3	17	三重県・四日市市
	U-14	☆①	平成 29 年 5 月 19 日～24 日	3	20	三重県・鈴鹿市
2		平成 30 年 2 月 20 日～25 日	3	20	三重県・四日市市	
女子	U-20	☆1	平成 29 年 6 月 29 日～7 月 4 日	3	12	兵庫県・三木市
		☆2	平成 30 年 2 月 7 日～12 日	3	16	兵庫県・三木市
	U-17	☆1	平成 29 年 4 月 8 日～13 日	3	20	三重県・鈴鹿市
		②（日韓中 ジュニア代表 チーム）	平成 29 年 8 月 22 日～24 日	3	6	茨城県・笠間市
		☆3	平成 30 年 2 月 3 日～8 日	3	20	兵庫県・三木市
	U-14	☆①	平成 29 年 5 月 19 日～24 日	3	21	三重県・鈴鹿市
☆2		平成 30 年 2 月 3 日～2 月 8 日	3	20	兵庫県・三木市	

(注 1) ☆印は（公財）日本オリンピック委員会の補助事業である。（14,630,000 円）

(注 2) ○印の合宿は男女合同で実施した。

3) 競技力向上のための海外遠征

・次の国際大会へ選手を派遣し、競技力の向上を図った。

* 2017 ワタキューカップドイツ大会

ドイツにおいて5月26日～27日まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団長	野際照章（専務理事）	
男子選手	船水雄太（NTT西日本）	林大喜（NTT西日本）
女子選手	小谷奈津美（ダンロップ）	大槻麗（ダンロップ）
イ. 参加国	日本、韓国、中国、インド、ドイツ	
ウ. 成績	男子ダブルス	準優勝 船水雄太・林大喜
	女子ダブルス	優勝 小谷奈津美・大槻麗
	男子シングルス	第三位 船水雄太
	女子シングルス	優勝 小谷奈津美

* 第16回チャイナカップ

中国・湖北省において、6月19日～6月23日まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団長兼男子監督	北本英幸（強化委員長）	
女子監督	田中弘（強化委員）	
トレーナー	吉川友巳奈（全日本アンダー17 女子チームトレーナー）	
男子選手	中平慎吾（明治大学）	米澤 要（明治大学）
	丸岡俊介（明治大学）	金子大祐（明治大学）
	立木雅也（明治大学）	本倉健太郎（明治大学）
女子選手	尾上胡桃（日本体育大学）	古田麻友（関西大学）
	上原由佳（早稲田大学）	小山 舞（早稲田大学）
	笠井佑樹（日本体育大学）	黒田奈穂子（日本体育大学）
イ. 参加国	日本、中国、韓国、中華台北	
ウ. 成績	男子国別対抗戦	第三位
	女子国別対抗戦	第三位
	ミックスダブルス	第三位：笠井佑樹・米澤要

* 第25回日・韓・中ジュニア交流競技会（ソフトテニス）

茨城県・笠間市において、8月23日～8月29日まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団長	金子知行（理事）	
男子監督	池田征弘（全日本アンダー17 男子チーム監督）	
女子監督	高井志保（全日本アンダー17 女子チーム監督）	
トレーナー	小亀裕美（全日本アンダー17 女子チームトレーナー）	
男子選手	上岡俊介（上宮高校）	広岡宙（上宮高校）

	林湧太郎（高田商業高校）	山根稔平（高田商業高校）
	北本達己（高田商業高校）	根本大地（高田商業高校）
女子選手	竹田真樹（三重高校）	島津佳那（千代田女子学園高校）
	小松芹奈（東北高校）	下江遥花（和歌山信愛高校）
	土井あんず（三重高校）	片野理音（東北高校）
イ. 参加チーム	日本、韓国、中国、茨城県	
ウ. 成績	男子：優勝 女子：優勝	

* 2017 コリアカップ（第1回ソフトテニスアジアカップ2017）

韓国・安城市において8月23日～27日まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

男子監督	中堀成生（男子ナショナルチーム監督）	
女子監督	斉藤広宣（女子ナショナルチーム監督）	
男子コーチ	川村達郎（男子ナショナルチームコーチ）	
女子コーチ	高川経生（女子ナショナルチームコーチ）	
トレーナー	田中京介（男子ナショナルチームトレーナー）	
	川上晃司（女子ナショナルチームトレーナー）	
男子選手	船水颯人（早稲田大学）	長江光一（NTT西日本）
	村上雄人（NTT西日本）	船水雄太（NTT西日本）
	九島一馬（ミズノ）	上松俊貴（早稲田大学）
	安藤優作（早稲田大学）	安藤圭祐（東邦ガス）
	丸山海斗（明治大学）	
女子選手	泉谷朋香（東芝姫路）	中川瑞貴（ナガセケンコー）
	徳川愛実（ヨネックス）	黒木瑠璃華（ヨネックス）
	半谷美咲（どんぐり北広島）	林田リコ（文化学園大学杉並高校）
	小谷奈津美（ダンロップ）	大槻麗（ダンロップ）
	尾上胡桃（日本体育大学）	高橋乃綾（どんぐり北広島）

イ. 参加国 日本、韓国、中華台北、中国、タイ、フィリピン、インド、ベトナム、ラオス、モンゴル、カンボジア、ポーランド、ネパール

ウ. 成績	男子ダブルス	準優勝	安藤圭祐・丸山海人
		第三位	船水颯人・上松俊貴
	女子ダブルス	優勝	小谷奈津美・大槻麗
		準優勝	林田リコ・黒木瑠璃華
		第三位	中川瑞貴・泉谷朋香
	男子シングルス	優勝	船水颯人
	女子国別対抗戦	優勝、準優勝	

* フィリピン大学生ソフトテニス選手権大会

フィリピン・ケソン市において11月8日～11月13日まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長 高井志保 (全日本アンダー17女子チーム監督)
 男子選手 本倉健太郎 (明治大学) 内田理久 (早稲田大学)
 女子選手 笠井佑樹 (日本体育大学) 上田理央 (明治大学)

イ. 参加国 日本、フィリピン、カンボジア

ウ. 成績
 男子ダブルス 優 勝 本倉健太郎・内田理久
 女子ダブルス 優 勝 笠井佑樹・上田理央
 男子シングルス 優 勝 内田理久
 第三位 本倉健太郎
 女子シングルス 優 勝 上田理央
 第三位 笠井佑樹
 男子国別対抗戦 優 勝
 女子国別対抗戦 優 勝

* 第7回タイオープン国際ソフトテニス選手権大会

タイ・バンコクにおいて2月21日～2月27日まで行われた標記大会に、次の選手団を派遣した。

ア. 選手団

団 長 田中弘 (強化委員)
 男子選手 安藤圭祐 (東邦ガス) 本倉健太郎 (明治大学)
 女子選手 中川瑞貴 (ナガセケンコー) 芝崎百香 (ナガセケンコー)

イ. 参加国 日本、タイ、カンボジア、中国、中華台北、インドネシア、モンゴル

ウ. 成績
 男子ダブルス 第三位 安藤圭祐・本倉健太郎
 女子ダブルス 優 勝 中川瑞貴・芝崎百香
 ミックスダブルス 優 勝 中川瑞貴・安藤圭祐

4) 強化スタッフの各種大会視察

- 強化スタッフ・強化委員を次のとおり各種大会に派遣した。

大会名	派遣者
全日本シングルス選手権大会	中堀成生・川村達郎・斉藤広宣・高川経生 小野寺剛
ハイスクールジャパンカップ	池田征弘・高橋茂
全日本小学生選手権大会	松元誠二
全国中学校大会	橋本康徳・深間内誠・安達和紀・海江田佐奈美
全日本ジュニア選手権大会	池田征弘・高橋茂・橋本康徳・海江田佐奈美
全日本選手権大会	中堀成生・川村達郎・斉藤広宣・高川経生 伊加英隆・川崎智成
都道府県対抗全日本中学生大会	安達和紀

(2) 医科学研究調査

- ① 医科学スタッフによるサポート事業を実施した。
 - ・国内大会での撮影及び映像分析を行い、強化合宿において活用した。
 - ・国内大会でトレーナーズテントを設営し、選手の活動支援を行った。
 - ・全日本アンダーチーム、ナショナルチーム、日本代表チームの合宿時にメディカルチェックを実施し、選手の健康管理と指導を行った。
 - ・強化選手へのメンタルトレーニングを行った。
 - ・強化選手を対象に栄養調査を実施し、その分析結果をもとに指導した。
 - ・国際大会派遣に帯同し、情報収集・分析・フィードバックを行った。
- ② 各種フィットネステストデータを分析し、競技力向上に役立てた。
- ③ 医科学研究報告書を作成・発行し、指導現場に役立てた。
- ④ 国立スポーツ科学センター（JISS）におけるアスリートチェック事業での検査・測定を行った。ヨネックススポーツ振興財団より 750,000 円の助成を受けた。

(3) アンチ・ドーピング

- ① アンチ・ドーピングに関する教育・啓発活動
 - ・(公財)日本アンチ・ドーピング機構と連携して、ホームページや大会要項等への情報掲載や強化合宿での指導等、ドーピング防止の普及啓発活動を実施して、スポーツの公平性を競技者に理解させ健全な精神の育成を図った。
 - ・Step-4 会場においてアウトリーチプログラムを実施し、20 歳以下の選手へのアンチ・ドーピングの教育・啓発活動を図った。
- ② 国内大会におけるドーピング検査の実施
 - ・全日本シングルス選手権大会、全日本選手権大会、全日本インドア選手権大会で実施し、日本スポーツ振興センターより助成を受けた。(助成金 2,571,000 円)
- ③ 国際連盟およびアジア連盟と連携してのアンチ・ドーピング活動の推進を図った。

2. ソフトテニスの指導者育成

(1) 指導者養成

① 指導者養成事業の推進

- ・指導者養成講習会を次のとおり実施した。
 - ア. 指導員養成講習会専門科目開催事業 7 会場
実施都道府県
青森県、秋田県、福島県、石川県、岐阜県、高知県、大分県
 - イ. スポーツ専門学校 1 会場
履正社医療スポーツ専門学校
- ・「公認スポーツ指導者養成マニュアル」の活用を推進した。
- ・公認スポーツ指導者の活用方法の検討を行った。
- ・中・高等学校指導者育成のための方策を検討した。
- ・履正社医療スポーツ専門学校において専門学校生と 10 名を対象に指導員養成講座を実施し、指導員の養成を行った。
- ・現行の「ソフトテニス指導マニュアルジュニア編」の改訂とジュニア指導者の実態把握を

- 目的に、全国小中高指導者研修会において、アンケート調査を実施した。
- ・ 中学および高等学校等でソフトテニス未経験の顧問を対象とした講習会開催については、実施している支部の情報収集と講師派遣方法について検討した。
 - ・ スポーツ庁からの「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」をもとに、部活動の情勢変化への対応方法について検討を開始した。
- ② 全国小学生・中学生・高校生の指導者の合同研修会を実施した。
- ・ 日程：平成 29 年 2 月 17 日（土）・18 日（日）
 - ・ 場所：邦和セミナープラザ
 - ・ 参加人数：役員 19 名、指導者 131 名、合計 150 名
 - ・ 研修内容
 - ア．小学生、中学生、高校生へのソフトテニス活動における課題の改善を検討した。
 - イ．テニスコートのある会場に変更したことにより実技を導入することができた。強化委員長よりシングルス競技力向上についての説明、実技指導が行われた。
 - ウ．指導上の悩みと解決プランについて、指導対象および地域を越えたグループによってディスカッションを行った。
- ③ 日本連盟指導者バンクの活用推進
- 競技者育成プログラムおよび指導者養成推進等のため日本連盟として指導者バンクを有効に活用する方策等について検討を行った。
- ④ 地域における指導者バンクの活用推進
- ・ 積極的に地域における指導者バンクを活用して、競技者育成プログラム（Step-1, 2）の推進及び中学、高校の指導者不足を解消する等、普及を担う指導者の確保に協力した。
 - ・ ジュニア層指導者の資格取得を促進した。（指導員・審判・技術等級）
- ⑤ 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会と開催し、17 名の「公認スポーツ指導者養成講習会」の講師を養成した。

Ⅲ. ソフトテニスの国際振興事業

1. ソフトテニスの国際振興

(1) 国際普及活動の推進

- ① 中国の要請により、武田博子氏を派遣した。
- ② タイ代表チームの桜友会（日体大 OB 会）合宿、セミナーへの参加支援を実施した。
- ③ 我が国から提出されたテニスとソフトテニスのアウトコートの比較を基にアジア連盟より国際連盟に規則の改訂案が準備された。
- ④ 用具・用品の支援

国際大会およびアジア連盟加盟国会議等において、ラケット、ボールを支援した。

ボール 130 打、ラケット 273 本
- ⑤ 審判講習会の実施
 - ・ アジアカップにおいて、アジア連盟からの依頼により審判講習会を実施した。
 - ・ 加盟国会議において、アジア連盟からの依頼により審判講習会を実施した。
- ⑦ 普及用教材の活用
 - ・ 加盟国会議において、『案山子とラケット』の英語テロップ版を上映した。
 - ・ 『案山子とラケット』の DVD を加盟国に提供した。

- ⑧ 国際普及親善活動に結びつく、支部活動に対する「国際親善大会補助費」を助成した。

北海道連盟、秋田県連盟、東京都連盟、石川県連盟、福井県連盟、静岡県連盟、山口県連盟、広島県連盟、香川県連盟、福岡県連盟、宮崎県連盟、日本学生連盟

(2) 国際指導体制、審判体制等の充実

- ① 国際審判員制度(ASTF)の推進を図った。

アジア連盟からの依頼により、アジアカップおよびアジア連盟加盟国会議における国際審判員研修事業に講師を派遣し、国際審判員の資質向上に協力した。

(3) 国際大会の開催促進

- ① 第1回東アジアユース大会(2019年)を開催する中華台北への開催に向けての支援を行った。
- ② 2017年2月28日～3月4日まで、タイオープンに男女各1ペアを派遣した。
- ③ 2017年4月19日～4月26日まで2011年の関西ワールドマスターズ事前視察で、オークランド(ニュージーランド)に野際専務理事、丹崎国際委員長が出かけ、日本開催に向け、広報活動を行った。
- ④ 2017年5月23日～28日までドイツフランクフルトにて開催されたワタキューカップに、男女各1ペアを派遣した。同大会には、ワタキューセイモアより女子2ペア、専修大学より男子2ペアも参加した。
- ⑤ 2017年6月17日～24日までチャイナカップ大会に男女各6名を派遣した。同時開催のASTF執行会議に笠井副会長、野際専務、丹崎国際委員長が出席し、今後のASTF活動及び第1回アジアカップの開催に向けて打合せを行った。
- ⑥ 2017年8月22日～28日まで第1回アジアカップ(コリアカップ)が韓国のアンソン市で開催され、男子9名、女各10名を派遣した。チャイナカップと同様に同時開催のASTF執行会議に笠井副会長、野際専務、丹崎国際委員長が出席した。
- ⑦ 2017年9月15日～19日まで、笠井副会長、玉木国際委員をパラグアイとブラジルに派遣し、ソフトテニスの指導と南米での今後のソフトテニス普及活動について協議を行った。シニア選手4名(山口県2名、福岡県1名、徳島県1名)と、ワタキューセイモアより女子選手4名がパラグアイでの普及指導活動と、ブラジルで開催されたワタキューカップに参加した。
- ⑧ 2017年11月10日～12日まで、フィリピン大学生の国際大会に、男女各1ペアが参加した。
- ⑨ 2017年11月19日～24日まで、インドネシアのパレンバンにて開催された第3回インドネシアオープンに、東京女子体育大学より6名、専修大学より6名を派遣した。

(4) 国際組織(ASTF)への活動

- ① アジアソフトテニス連盟(ASTF)の加盟国会議の開催に、開催国として協力した。

・期日および会場 平成29年12月9日(土)・10日(日)

・参加国 中国、韓国、中華台北、香港、インド、インドネシア、モンゴル、ネパール、パキスタン、フィリピン、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、日本

・主な議題 アジア選手権大会の開催地について
アジアジュニア選手権大会について
規則の改訂について
アジア連盟の決算および予算について

[各事業を推進するための組織と財政の強化]

I. 組織と財政の強化

1. 組織と財政の強化の推進

公益財団法人としての高い社会的信用を維持し公益目的事業を行うために、組織体制の強化と財政運営に取り組んだ。

2. 環境と教育への取り組み

ソフトテニスを通じて環境教育と青少年健全育成に取り組んだ。

- ① 大会や各種事業を実施する際にごみの分別や、マイボトルの推進を図るなど、スポーツ活動を通して環境保全を図り、スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進するため、物を大切に作る生活習慣を徹底した。

また、環境とマナーの横断幕を各都道府県の中学生大会・高校生大会用に2枚の追加配布、そして新たに各地区の学生連盟に9枚の配布を行った。

平成26年度に当連盟が作成した「環境宣言『来た時よりも美しく』・フェアプレイ宣言『ありがとう あなたの笑顔とそのマナー』」の横断幕や日本オリンピック委員会のポスターの掲出、プログラム等への掲載を実施し、環境とマナーの向上を図った。

- ② スポーツマンとしての倫理教育、青少年の健全育成の推進

- ・スポーツ活動を通して青少年が自己責任やフェアプレイの精神などを身につけると共に、仲間との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や他人に対する思いやりなど、豊かな人間性を育める取り組みを推進した。
- ・大会会場で「あくしゅ あいさつ ありがとう」の実践をすすめ、選手のお互いへの思いやりや、相手を尊敬する精神の育成を行った。
- ・「フェアプレイで日本を元気に」フェアプレイ宣言キャンペーン活動を継続推進した。
- ・「マナーBOOK」の修正版を日本連盟のホームページに掲載し、ダウンロードして活用することを推進した。

3. 会員登録制度の推進

財政基盤となる会員登録料はシステム活用により正確に収納され、組織と財政の強化を行うことができた。そして、各支部を中心とした多くの関係者のご努力とご協力により順調に推進し、財政基盤も強固なものとなってきている。

- ① 会員登録制度の充実

- ・制度の周知徹底を図り制度を定着させ、会員増加を目指して推進した。

- ② 会員登録手続きの効率化

- ・会員登録システムの活用を向上し、事務効率化を図った。
- ・会員登録システム担当者引継ケースを各登録団体に配布した。これは3年に1度の配布で実施しており、登録団体において管理者が交替する際の事務引継の徹底と円滑化を図っている。
- ・会員登録システムに連動し、審判、技術等級の認定管理を行った。
- ・平成27年度より開始した支部大会申込システムの活用を促進した。
- ・会員証及び会員報を各団体へ直接送付し、支部関係者の事務負担の軽減を図った。
- ・会員登録料納付システムの活用による会費および大会参加料等の早期かつ正確な納

付による円滑な資金管理を推進した。

③ 会員報の発行

- ・年2回(9月、2月)会員報を発行して会員登録料の使途及び日本連盟の情報を会員に周知した。

④ 登録状況の把握と改善

- ・支部別及び階層別の登録状況を把握し、年度別登録人数の推移を精査し今後の対策を協議した。
- ・会員登録有料化からの階層別会員登録推移の検証・分析をし、愛好者増加対策事業のデータベース作成方法の協議を進めた。

4. 暴力行為の根絶

- ※「公益財団法人日本体育協会及び加盟団体における倫理に関するガイドライン」に従い、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」の精神に則り暴力の根絶の徹底を図っている。
- ※暴力行為の根絶のため、平成25年12月1日に制定した指導基本規程に基づき、通報窓口と指導基本規程違反の処理機関として、違反救済申立処理委員会を各支部(各都道府県連盟、日本学連、全国高体連、日本中体連)に、違反救済審査委員会を日本連盟に平成26年4月1日より設置し、指導基本規程等諸規程に従った対応を図った。

5. 長期基本計画2017の推進

平成29年度は長期基本計画2017(平成29年度～33年度)開始の年であり、着実に推進した。

〔庶務事項〕

1. 評議員会に関する事項

(1) 定時評議員会

- ア. 期 日 平成29年6月11日(日)正午 開会
- イ. 会 場 アワーズイン阪急 ツイン館4階「第1・第2」会議室
- ウ. 決議事項
 - ① 平成28年度事業報告書(案)および決算報告書(案)について
 - ② 補欠評議員4名の選任について
 - ③ 補欠理事1名の選任について
 - ④ 新規全日本大会等について

(2) 臨時評議員会

- ア. 期 日 平成29年12月3日(日)午前9時30分 開会
- イ. 会 場 ワタキューセイモア(株)会議室
- ウ. 決議事項
 - ① 平成29年度第1次補正予算(案)について
 - ② 大会要項の改訂について
 - ③ 平成30年度事業計画(案)について
 - ④ 平成30年度収支予算(案)について
 - ⑤ 平成30年度評議員会日程について

2. 理事会に関する事項

(1) 第1回理事会

ア. 期 日 平成29年5月20日(土) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ① 平成28年度事業報告書(案)および決算報告書(案)について
- ② 補欠理事1名の選任について
- ③ 補欠評議員4名の選任について
- ④ 参与の変更について
- ⑤ 公認事業者および製品の名称変更について
- ⑥ 用具・用品の公認申請について

エ. 審議事項

- ① 新規全日本大会等について
- ② 大会役員派遣規定(案)について

(2) 第2回理事会

ア. 期 日 平成29年6月10日(土) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ① 平成29年度定時評議員会提案事項の確認について
- ② 補欠評議員1名の選任について
- ③ 公認事業者について
- ④ 用具・用品の公認申請について

エ. 審議事項

- ① 新規全日本大会等について

(4) 第3回理事会

ア. 期 日 平成29年9月23日(土) 正午 開会

イ. 会 場 ワタキューセイモア(株) 研修室A

ウ. 議決事項

- ① オフィシャルサプライヤーについて
- ② 大会役員派遣規定(案)について
- ③ 用具・用品の公認申請について
- ④ アジア競技大会日本代表選手予選会の大会実施要項(案)について
- ⑤ 専門委員の追加と変更について

エ. 審議事項

- ① 都道府県対抗全日本中学生大会の参加料について
- ② ハンドブック改訂(案)について
- ③ 審判員バンク及び審判員派遣規定(案)について

(5) 第4回理事会

ア. 期 日 平成29年11月3日(祝・土) 正午 開会

イ. 会 場 (公財) 日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議決事項

- ① 大会要項の改訂について
- ② 専門委員会規程の改訂について
- ③ ナショナルチーム・全日本アンダーチーム編成基準の改訂について
- ④ 全国審判員指導者研修会の開催について
- ⑤ 平成 29 年度第 1 次補正予算（案）について
- ⑥ 平成 30 年度事業計画（案）について
- ⑦ 平成 30 年度収支予算（案）について

エ. 審議事項

- ① 平成 29 年度表彰者について
- ② 公認審判員ワッペンの再発行について
- ③ 第 77 回日本スポーツ賞について
- ④ 平成 30 年度理事会および評議員会日程（案）について

(6) 第 5 回理事会

ア. 期 日 平成 29 年 12 月 2 日（土）正午 開会

イ. 会 場 ワタキューセイモア（株）会議室

ウ. 議決事項

- ① 平成 30 年強化チーム（案）について
- ② 都道府県対抗全日本中学生大会の参加料改訂について
- ③ 平成 29 年度臨時評議員会提案事項について
- ④ 用具・用品の公認申請について

エ. 審議事項

- ① 大会開催予定について
- ② 平成 29 年度表彰について
- ③ 審判員ワッペンの再発行について

3. 業務執行会議に関する事項

(1) 第 1 回業務執行会議

ア. 期 日 平成 29 年 5 月 19 日（水） 14 時 開会

イ. 会 場 （公財）日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

- ① 業務執行状況報告
- ② 平成 29 年度第 1 回理事会議題等について
- ③ その他

(2) 第 2 回業務執行会議

ア. 期 日 平成 29 年 6 月 10 日（水） 10 時 30 分 開会

イ. 会 場 （公財）日本ソフトテニス連盟会議室

ウ. 議 題

- ① 業務執行状況報告
- ② 第 2 回理事会および定時評議員会の議題について
- ③ その他

(3) 第3回業務執行会議

- ア. 期 日 平成29年9月6日(水) 12時 開会
イ. 会 場 (公財)日本ソフトテニス連盟会議室
ウ. 議 題
① 業務執行状況について
② オフィシャルサプライヤーについて
③ その他

(4) 第4回業務執行会議

- ア. 期 日 平成29年9月22日(金) 14時 開会
イ. 会 場 ワタキューセイモア(株)会議室
ウ. 議 題
① 業務執行状況について
② 第3回理事会議題について
③ その他

(5) 第5回業務執行会議

- ア. 期 日 平成29年11月2日(木) 13時 開会
イ. 会 場 (公財)日本ソフトテニス連盟会議室
ウ. 議 題
① 業務執行状況について
② 第4回理事会議題について
③ その他

(6) 第6回業務執行会議

- ア. 期 日 平成29年12月1日(金) 14時 開会
イ. 会 場 ワタキューセイモア(株)会議室
ウ. 議 題
① 業務執行状況について
② 第5回理事会および臨時評議員会の議題について
③ その他

(7) 第7回業務執行会議

- ア. 期 日 平成30年2月24日(土) 11時30分 開会
イ. 会 場 ワタキューセイモア(株)会議室
ウ. 議 題
① 業務執行状況について
② 第6回理事会議題について
③ その他

4. 専門委員会等に関する事項

(1) 各専門委員会等諸会議が、次のとおり開催された。

月	日	専門委員会(部会)名	会 場
4	14	IT部会	日本連盟会議室

	15	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	22	会員登録制度部会	日本連盟会議室
	23	環境教育プロジェクト委員会	日本連盟会議室
	27	機関誌編集部会	日本連盟会議室
5	21	アンチ・ドーピング部会	日本連盟会議室
6	1	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	24	プログラム編成部会	日本連盟会議室
7	3	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	8	委員長会議	日本連盟会議室
	9	審判委員会	日本連盟会議室
	22	プログラム編成部会	日本連盟会議室
8	5	総務委員会	日本連盟会議室
	6	総務委員会	日本連盟会議室
	10	IT部会	日本連盟会議室
	11	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	23	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	24	プログラム編成部会	日本連盟会議室
9	3	強化委員会	日本連盟会議室
	4	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	4	広報委員会	日本連盟会議室
	8	生涯スポーツ委員会	日本連盟会議室
	9	競技委員会	日本連盟会議室
	9	審判委員会	首都圏イノベーションセンターMICAN
	10	国際委員会	日本連盟会議室
	16	会員登録制度部会	日本連盟会議室
	18	競技者育成プログラム推進委員会	兵庫県民会館
	20	プログラム編成部会	日本連盟会議室
10	4	プログラム編成部会	日本連盟会議室
	8	医科学委員会	日本連盟会議室
	15	環境・教育プロジェクト	日本連盟会議室
	18	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	21	強化委員会	前橋総合運動公園テニスコート
	22	トレーナー部会	前橋総合運動公園テニスコート
	28	指導委員会	日本連盟会議室
11	9	機関誌編集部会	日本連盟会議室
12	11	機関誌編集部会	日本連盟会議室

1	16	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	19	IT 部会	日本連盟会議室
	20	総務委員会	日本連盟会議室
	27	競技委員会	日本連盟会議室
2	4	マネジメント部会	大阪市立体育館会議室
	10	指導基本規程違反救済審査委員会	日本連盟会議室
	11	会員登録制度部会	日本連盟会議室
	15	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	18	指導委員会	日本連盟会議室
	24	プログラム編成部会	日本連盟会議室
3	3	広報委員会	日本連盟会議室
	15	機関誌編集部会	日本連盟会議室
	17	プログラム編成部会	日本連盟会議室

(2) 監査等が、次のとおり実施された。

月	日	事業内容	会 場
5	15	公認会計士による会計監査	日本連盟会議室
5	16 17	監事による監査	日本連盟会議室
2	14	公認会計士による期中監査	日本連盟会議室

5. 役員・事務局職員に関する事項 (平成30年3月31日現在)

(1) 平成29年度(平成30年度定時評議員会まで)

名誉会長・名誉副会長・理事25名

役職	氏名	役職	氏名
名誉会長	海部 俊樹	名誉副会長	表 孟宏

役職	氏名	選出母体	役職	氏名	選出母体
会長	安道 光二	学識経験	理事	川西 斎	近畿
副会長	小原 信幸			木原 晴彦	中国
副会長	笠井 達夫			安藤 正美	四国
副会長	本田 茂雄			白水 厚二	九州
専務理事	野際 照章	金子 知行		高体連	
常務理事	柳下 秋久	会長推薦		林 昭文	中体連
	丹崎 健一			林田 正信	会長推薦
	北本 英幸			山下 晴海	
理事	川島 登	北海道・東北		佐藤 健司	
	石川 雅利	関東		井上 光子	
	和歌浦 信雄 (平成30年1月9日逝去)	北信越	上山 親子		
	篠邊 保	東海			

(2) 平成29年度(平成30年度定時評議員会まで) 監事 3名

氏名	支部	氏名	支部	氏名	支部
井上 清一	石川	萬 正一	秋田	山本 毅	京都

(3) 平成29年度(平成32年度定時評議員会まで) 評議員 50名

運上 琢論 (北海道)	新保 俊彦 (青森)	宮田 勤 (岩手)
松田 孝志 (宮城)	加藤 育広 (秋田)	柏倉 達雄 (山形)
小野間 幸一 (福島)	額賀 富雄 (茨城)	木所 一典 (栃木) ※
佐藤 栄一 (群馬)	中村 進 (埼玉)	堀越 浩 (千葉)
横山 隆二 (東京)	増田 大吾 (神奈川)	向山 淳 (山梨)
和歌浦 京子 (新潟)	原 雅幸 (長野) ※	高辻 則夫 (富山)
永井 茂樹 (石川)	川畑 茂 (福井)	落合 敏男 (静岡)
澤田 康彦 (愛知)	天野 晴夫 (三重)	安藤 清 (岐阜)
金井 豊 (滋賀)	増木 博一 (京都)	友谷 往弘 (大阪)
森田 賢二 (兵庫)	西森 卓也 (奈良)	花田 一弥 (和歌山)
安東 健司 (鳥取)	大地本 一到 (島根)	小野 尚彦 (岡山) ※
大前 秀樹 (広島)	弘中 基之 (山口)	岸本 正文 (徳島)
木下 恵司 (香川)	越智 朗 (愛媛)	横江 忠志 (高知)
湯田 純孝 (福岡)	公門 武敏 (佐賀) ※	馬場 信幸 (長崎)
岩下 敏和 (熊本)	福田 茂 (大分)	當瀬 純一 (宮崎)
山口 純生 (鹿児島)	宮城 正彦 (沖縄)	宮崎 正己 (日学連)
落合 護 (高体連)	平野 富靖 (中体連)	

※平成29年度定時評議員会より

(4) 平成29年度(平成30年度定時評議員会まで) 専門委員会

平成30年3月31日現在

総務委員会	委員長	和歌浦信雄(新潟)	副委員長 丹崎 健一(東京)		
	委員	川島 登(福島)	白水 厚二(大分)	金子知行(高体連)※	運上 琢輪(北海道)
		北 正三(埼玉)	森田 賢二(兵庫)		
会員登録制度部会	部会長	川島 登(福島)			
	委員	井上 光子(千葉)	白水 厚二(大分)	林 昭文(中体連)	和歌浦信雄(新潟)
		北 正三(埼玉)			
I T 部会	部会長	北 正三(埼玉)			
	委員	天野 晴夫(三重)	君塚 亮一(神奈川)	増山 良夫(東京)	

審判委員会	委員長	林田 正信(熊本)	副委員長 上山 親子(大阪)		
	委員	川西 齋(奈良)	木原 晴彦(広島)	柳下 秋久(東京)	山下 晴海(埼玉)
		今井 史郎(東京)	小田 宗雄(熊本)	北 正三(埼玉)	木下 道夫(東京)
		君塚亮一(神奈川)	田村 忠士(広島)	笹岡 宣明(愛知)	牧 壮一(愛知)
		森 純(宮城)	渡辺はるみ(北海道)		

競技委員会	委員長	柳下 秋久(東京)	副委員長 安藤 正美(香川)		
	委員	石川 雅利(千葉)	井上 光子(千葉)	篠邊 保(愛知)	佐藤 健司(東京)
		山下 晴海(埼玉)	今井 史郎(東京)	長岡 敏久(埼玉)	
プログラム編成部会	部会長	長岡 敏久(埼玉)			
	委員	井上 光子(千葉)	佐藤 健司(東京)	山下 晴海(埼玉)	石坂 欣也(東京)
		井上まゆ美(東京)	小笠原浩二(東京)	小俣 三男(埼玉)	織原真由美(東京)
		木谷 順三(千葉)	木所 一典(栃木)	木村 眞敏(埼玉)	高川恵美子(東京)
		高橋 道子(埼玉)	中野 吉広(東京)	成島 厚子(東京)	藤原 芳子(東京)
		増山 良夫(東京) (平成29年7月7日逝去)	山口 眞護(東京)		
等級制度部会	部会長	今井 史郎(東京)			
	委員	篠邊 保(愛知)	安達 和紀(鳥取)	大中 和彦(神奈川)	岡村 勝幸(山梨)
		木下 道夫(東京)	吉田 茂(福島)		

強化委員会	委員長	北本 英幸(石川)	副委員長 小野寺 剛(東京)		
	委員	安藤 正美(香川)	篠邊 保(愛知)	井田 博史(東京)	神崎 公宏(三重)
		斉藤 広宣(千葉)	高川 経生(東京)	田中 弘(東京)	中堀 成生(広島)
		川村達郎(山口)※			

指導委員会	委員長	篠邊 保(愛知)	副委員長 井田 博史(東京)		
	委員	北本 英幸(石川)	浅川 陽介(東京)	安達 和紀(鳥取)	小野寺 剛(東京)
		小峯 秋二(富山)	高井 志保(大阪)	玉井俊充(和歌山)	百町 善明(京都)

生涯スポーツ委員会	委員長	石川 雅利(千葉)	副委員長 白水 厚二(大分)		
	委員	井上 光子(千葉)	上山 親子(大阪)	川西 斎 (奈良)	林 昭文(中体連)
		落合 護(高体連)	普天間富士子(沖縄)		
小学生部会	部会長	金岡 昭房(宮城)			
	委員	宇野 一行(愛媛)	小野 道康(新潟)	川並久美子(和歌山)	國枝 俊子(岐阜)
		小西 俊博(香川)	芝地 康幸(兵庫)	中村 正広(福岡)	畠山 洋二(広島)
廣島義春(北海道)	松口康彦(神奈川)				
シニア部会	部会長	川西 斎 (奈良)			
	委員	佐藤 健司(東京)	白水 厚二(大分)	鍵 茂 (宮城)	時任 宥幸(東京)
		保倉 謙治(埼玉)	山村 嘉一(千葉)	横野久美子(愛知)	

国際委員会	委員長	丹崎 健一(東京)	副委員長 木原 晴彦(広島)		
	委員	赤須 由佳(三重)	安達 和紀(鳥取)	蒲原 英敏(広島)	古賀 俊彦(京都)
		関川 丈彦(新潟)	玉木 進 (東京)	角田 光央(東京)	福崎 穰司(広島)
		松井愛美(神奈川)	山口 正紀(広島)		

広報委員会	委員長	山下 晴海(埼玉)	副委員長 安藤 正美(香川)		
	委員	石川 雅利(千葉)	井上 光子(千葉)	柳下 秋久(東京)	大野 勝敏(埼玉)
		玉木 進 (東京)	中山 俊介(東京)	萩原廣一(神奈川)	
機関誌編集部会	部会長	井上 光子(千葉)			
	委員	石川 雅利(千葉)	佐藤 健司(東京)	山下 晴海(埼玉)	赤井 宏司(東京)
		近藤 貴予(東京)	鈴木 学 (埼玉)		

医科学委員会	委員長	山本 裕二(愛知)	副委員長 石川 雅利(千葉)		
	委員	川上 晃司(兵庫)	工藤 敏己(宮城)	永井 博典(東京)	藤島 淑子(東京)
	医学部会	部会長	永井 博典(東京)		
委員		川野 因(神奈川)	出家 正隆(愛知)	藤島 淑子(東京)	見附 祥子(広島)
		守重 昌彦(兵庫)	山田 隆 (東京)		
アンチ・ドーピング部会	部会長	藤島 淑子(東京)			
	委員	丹崎 健一(東京)	井田 博史(東京)	上遠野 久美(福島)	玉木 進 (東京)
		見附 祥子(広島)	永井 博典(東京)		
トレーナー部会	部会長	川上 晃司(兵庫)			
	委員	高嶋 直美(東京)	永野 康治(東京)	見附 祥子(広島)	吉川友己奈(京都)
スポーツ科学部会	部会長	工藤 敏己(宮城)			
	委員	井田 博史(東京)	緒方 貴浩(東京)	楠堀 誠司(広島)	永野 康治(東京)
		福原和伸(神奈川)	水野 哲也(千葉)	村山 孝之(石川)	山本 裕二(愛知)

《特別委員会》

競技者資格委員会	委員長	安道 光二(京都)	副委員長 野際 照章(京都)		
	委員	笠井達夫(神奈川)	小原 信幸(岡山)	本田 茂雄(宮城)	井上 光子(千葉)
		林 昭文(中体連)	柳下 秋久(東京)	金子知行(高体連)※	和歌浦信雄(新潟)

倫理委員会	委員長	小原 信幸(岡山)	副委員長 野際 照章(京都)		
	委員	笠井達夫(神奈川)	本田 茂雄(宮城)	柳下 秋久(東京)	和歌浦 信雄(新潟)

競技者育成プログラム 推進委員会	委員長	野際 照章(京都)	副委員長 山下 晴海(埼玉)		
	委員	北本 英幸(石川)	木原 晴彦(広島)	篠邊 保 (愛知)	白水 厚二(大分)
		林 昭文(中体連)	林田 正信(熊本)	柳下 秋久(東京)	金子知行(高体連)※
		井上 創 (兵庫)	小野寺 剛(東京)	神崎 公宏(三重)	宮崎正己(日本学連)
競技者育成部会	部会長	北本 英幸(石川)			
	委員	安達 和紀(鳥取)	池田 征弘(京都)	小峯 秋二(富山)	斉藤 広宣(千葉)
		高井 志保(大阪)	田中 弘 (東京)	中津川澄男(宮城)	橋本 康徳(京都)
指導者育成部会	部会長	篠邊 保 (愛知)			
	委員	北本 英幸(石川)	浅川 陽介(東京)	小野寺 剛(東京)	斉藤 広宣(千葉)
		高井 志保(大阪)	高橋 茂(東京)	田中 弘 (東京)	松口康徳(神奈川)
マネジメント部会	部会長	井上 創 (兵庫)			
	委員	天野 晴夫(三重)	岩下 敏和(熊本)	越智 克昌(愛媛)	千葉 英明(宮城)
		手嶋 信彦(広島)	増田大吾(神奈川)	溝渕俊二(和歌山)	山田 浩一(石川)

用具・用品・施設委員会	委員長	野際 照章(京都)	副委員長 柳下 秋久(東京)		
	委員	木原 晴彦(広島)	佐藤 健司(東京)	山下 晴海(埼玉)	浅川 陽介(東京)

国際振興プロジェクト	委員長	丹崎 健一(東京)	副委員長 古賀 俊彦(京都)		
	委員	佐々木寿(北海道)	玉木 進 (東京)		

環境・教育 プロジェクト	委員長	川島 登 (福島)	副委員長 井上 光子(千葉)		
	委員	安藤 正美(香川)	木原 晴彦(広島)	林 昭文(中体連)	林田 正信(熊本)
		柳下 秋久(東京)	金子知行(高体連)※	岡村 勝幸(山梨)	金岡 昭房(宮城)
		林研一(日本学連)			

東京オリンピック 対策プロジェクト	委員長	丹崎 健一(東京)	副委員長 佐藤 健司(東京)		
	委員	内田 裕行(東京)	岡村 勝幸(山梨)	小峯 秋二(富山)	玉木 進 (東京)
		柳澤 昌彦(東京)	横山 隆二(東京)		

※平成29年9月23日より

(5) 平成29年度(平成30年度定時評議員会まで)

顧問・参与・事務局職員等

平成30年3月31日現在

《顧問》

松田 謙治	内田 昌一	北村 和久	西村 信寛
-------	-------	-------	-------

《参与》

重田 衛	柳田 昌作	水野 明人	米山 勉	木村 純之
高松 政男	松田 信穂	中山 昌作	伊野 二彦	内藤 享佑
吉田 敏彦	星野 博	西田 豊明	宮下 恭子	斉藤 元三
吉田 博紀	神崎 公宏			

〈事務局職員〉

事務局長	木谷 順三	平成28年9月1日～平成29年5月18日まで
	荒木 朋子	平成29年8月1日～ (事務局次長：平成28年9月1日～平成29年7月31日) (職員：平成3年5月1日～)
職員	大八木 洋子	平成13年4月1日～
	堀内 大	平成26年1月14日～
	渡辺 貴大	平成28年9月1日～
	上岡 大樹	平成29年7月1日～
	高田 義治	平成29年9月1日～

- ※ 顧問弁護士 鈴木 孝雄 氏
- ※ 公認会計士 櫻井 資悦 氏
- ※ 税理士 加藤 貴大 氏 (税理士法人みなと財務)

6. 会員登録に関する事項

(1) 年度別会員登録人数

(数値：人数)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成29年度	11,278	46,143	19,568	268,007	85,176	1,069	7,876	439,117
平成28年度	11,073	46,346	19,728	280,857	85,632	1,037	7,945	452,618
平成27年度	10,572	46,683	19,412	288,530	84,365	1,023	7,690	458,275
平成26年度	9,963	47,230	17,566	289,506	82,964	1,056	7,669	455,954
平成25年度	9,268	48,324	17,260	286,326	81,402	1,037	7,610	451,227
平成24年度	8,751	49,279	17,174	284,478	82,510	1,005	7,800	450,997
平成23年度	7,771	50,221	17,298	284,886	81,730	918	8,076	450,900
平成22年度	6,885	51,525	18,083	285,617	83,555	950	8,492	455,107
平成21年度	5,482	51,214	17,986	291,640	85,841	846	8,499	461,508
平成20年度	3,291	51,436	17,408	279,203	87,243	810	8,288	447,679

(注) 都道府県別会員数は別表4(P49)に掲載。

7. 分担金に関する事項

(1) 支部分担金

一律 150,000 円 × 50 支部 7,500,000 円

(2) 会員登録料

(単位：円)

種別	指導者	一般	小学生	中学生	高校生	高専	大学生	合計
平成29年度	11,278,000	46,143,000	9,784,000	143,003,500	42,588,000	534,500	3,938,000	248,269,000
平成28年度	11,073,000	46,346,000	9,864,000	140,428,500	42,816,000	518,500	3,972,500	255,018,500

(3) 維持会費

ア. 公認メーカー26社：延50社（前年度50社）

(単位：円)

用具・用品	金額	公認メーカー
ラケット 8社	800,000	カワサキ・ミズノ・ヨネックス・ゴーセン・住友ゴム工業・グローブライド・ティエムシー・ジャパーナ
ボール 3社	8,280,000	昭和ホールディングス・ナガセケンコー・住友ゴム工業
ネット 9社	900,000	鐘屋産業・アシックスジャパン・寺西喜商店・ミセキネット・昭和ホールディングス・高須賀・ティエヌネット・鶴沢ネット・豊貿易
ストリング 5社	3,300,000	ゴーセン・トアルソン・ヨネックス・住友ゴム工業・ミズノ
ユニフォーム 13社	14,790,000	カワサキ・ミズノ・昭和ホールディングス・ヨネックス・ゴーセン・アシックスジャパン・ゴールドウィン・ナイキジャパン・住友ゴム工業・アディダスジャパン・グローブライド・ニューバランスジャパン・ディーエムアール
シューズ 12社	5,760,000	アシックス・ヨネックス・ナイキジャパン・アディダスジャパン・住友ゴム工業・ミズノ・グローブライド・ゴールドウィン・ニューバランスジャパン・アメアスポーツジャパン・

		ディーエムアール・フォワードアパレルトレーディング
計	33,830,000	

イ. 施設業者 7社：延べ8社（前年度8社） (単位：円)

施設・製造	金額	業者名
砂入り人工芝 製造業者 7社	3,500,000	住友ゴム工業・積水樹脂・大塚ターフテック 東レ・アムテックス・エスディーテック・大嘉産業・泉州敷物
人工クレーコート 製造業者 1社	500,000	大塚ターフテック
計	4,000,000	

ウ. 一般 10団体59名 計950,000円（前年度8団体72名 計960,000円）

50,000	安道光二	京都						
40,000	東レ・アムテックス(株)							
30,000	小原信幸	岡山	笠井達夫	神奈川	本田茂雄	宮城	野際照章	京都
	池田幹雄	兵庫						
20,000	岩手県連盟		山口県連盟		ミズノ(株)		ダンロップスポーツ(株)	
	(株)ルーセント		(株)ゴーセン		ナガセケンコー(株)		テイエヌネット(株)	
	三田ソフトテニス倶楽部							
10,000	北村和久	三重	高松政男	栃木	齋藤元三	愛知	吉田博紀	熊本
	鷺尾典利	静岡	中村 修	愛知	今井誠則	広島	柳下秋久	東京
	丹崎健一	東京	北本英幸	石川	川島 登	福島	石川雅利	千葉
	和歌浦信雄	新潟	篠邊 保	愛知	川西 斎	奈良	木原晴彦	広島
	安藤正美	香川	白水厚二	大分	金子知行	高体連	林 昭文	東京
	林田正信	熊本	山下晴海	埼玉	佐藤健司	東京	井上光子	千葉
	上山親子	大阪	井上清一	石川	山本 毅	京都	萬 正一	秋田
	佐藤栄一	群馬	中村 進	埼玉	横山隆二	東京	落合敏男	静岡
	天野晴夫	三重	森田賢二	兵庫	西森卓也	奈良	大前秀樹	広島
	落合 護	高体連	宮崎正己	学連	原田公夫	鳥取	金岡昭房	宮城
	今井史郎	東京	笛岡宣明	愛知	長岡敏久	埼玉	國枝俊子	岐阜
	北 正三	埼玉	小野道康	新潟	玉木 進	東京	藤島淑子	東京
	山口正紀	広島	中村正広	福岡	蒲原英敏	広島	時任宥幸	東京
小西俊博	香川							

8. 補助金・助成金等に関する事項

(1) 補助金 合計額 14,630,000 円 (前年度 14,321,000 円)

(公財)日本オリンピック委員会	選手強化事業	14,630,000
-----------------	--------	------------

(2) 助成金 合計額 61,794,160 円 (前年度 60,514,594 円)

(独法)日本スポーツ振興センター(スポーツ振興基金助成金)	競技会開催(全日本選手権大会)	2,785,000
	競技会開催(JOC ジュニアオリンピックカップ/全日本ジュニア選手権大会)	1,105,000
	小計	3,890,000
(独法)日本スポーツ振興センター(スポーツ振興くじ)	競技者育成プログラム(Step-1~Step-3)	52,640,000
	ドーピング検査	2,571,000
	小計	55,211,000
愛顔つなぐえひめ国体実行委員会	国民体育大会役員旅費	943,160
(公財)ヨネックススポーツ財団	全日本若手キャンプ助成金	750,000
(公財)ミズノスポーツ振興財団	ジュニア育成に対する助成金	1,000,000

(3) 交付金 合計額 10,161,360 円 (前年度 8,192,020 円)

(公財)日本オリンピック委員会	マーケティングプログラム交付金	9,665,000
	JOC ジュニア選手強化交付金	200,000
(公財)日本体育協会	日本スポーツマスターズ運営補助交付金	234,800
	スポーツ指導者育成交付金	61,560

(4) 委託金 合計額 1,195,540 円 (前年度 2,573,740 円)

(公財)日本体育協会	日本スポーツマスターズ委託金	1,195,540
------------	----------------	-----------

9. 寄付金・協賛金に関する事項

(1) 協賛金 合計額 34,800,000 円 (前年度 39,250,000 円)

(単位：円)

ミズノ(株)「日本代表チームユニフォームオフィシャルサプライヤー協賛金」	10,000,000
ミズノ(株)「広報活動協賛金」	10,000,000
ミズノ(株)「国際振興協賛金」	3,000,000
ミズノ(株)「全日本インドア選手権大会協賛金」	250,000
ヨネックス(株)「日本代表チームストリングオフィシャルサプライヤー協賛金」	5,500,000
ナガセケンコー(株)「大会使用球協賛金」	2,000,000

昭和ホールディングス(株)「大会使用球協賛金」	2,000,000
ダンロップスポーツ(株)「大会使用球協賛金」	2,000,000
ダンロップスポーツ(株)「日韓中ジュニア交流競技会使用球協賛金」	50,000

(2) 追加公認 合計額 500,000 円 (前年度 6,000,000 円)

(単位：円)

(株) ディーエムアール 「ユニフォーム」	500,000
-----------------------	---------

10. 傷害補償制度の給付金に関する事項

30 件、978,000 円を給付した。(前年度：37 件 1,279,000 円)

(単位：件)

傷害の内容	一般	大学生	高専	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	5						5
骨折	4			1	1	1	7
靭帯損傷	2			1			3
肉離れ	7						7
その他	5				2		7
死亡	1						1
計	24	0	0	2	3	1	30

大会一覧表

別表1

月	日	大会名	種別	会場	参加者数
5	13・14	第24回全日本シングルス選手権大会	男子シングルス	香川県高松市	257
			女子シングルス		215
			小計		
6	21～25	第46回ハイスクールジャパンカップ	男子ダブルス	北海道札幌市 円山庭球場	144
			女子ダブルス		144
			男子シングルス		64
			女子シングルス		64
			小計		
	24・25	西日本シニア選手権大会	シニア男45	鳥取県鳥取市 鳥取大学テニスコート コカ・コーラウエストスポーツパーク テニスコート	82
			シニア女45		62
			シニア男50		94
			シニア女50		64
			シニア男55		110
			シニア女55		110
			シニア男60		158
			シニア女60		122
			シニア男65		96
			シニア女65		108
			シニア男70		70
			シニア女70		60
			シニア男75		34
			シニア女75		22
			シニア男80		22
			シニア女80		16
小計				1,230	
7	14～16	第72回東日本選手権大会	一般男子	福島県福島市 会津総合運動公園テニスコート あづま総合運動公園テニスコート 福島市庭球場	662
			一般女子		304
			成年男子		162
			成年女子		34
			シニア男45		94
			シニア女45		64
			シニア男50		94
			シニア女50		74
			シニア男55		104
			シニア女55		88
			シニア男60		108
			シニア女60		114
			シニア男65		148
			シニア女65		92
			シニア男70		88
			シニア女70		76
			シニア男75		52
			シニア女75		44
			シニア男80		22
			シニア女80		14
			小計		

7	15・16	第71回西日本選手権大会	一般男子	島根県松江市	376
			一般女子	松江総合運動公園松江市宮庭球場	238
			成年男子	島根県立浜山公園テニスコート	102
			成年女子		20
小計				736	
7	28～30	男子第62回 女子第61回 全日本実業団選手権大会	男子団体	福井県福井市 わかばテニスコート	987
			女子団体	福井県越前市 武生中央公園テニスコート	113
			小計		
	27～30	第34回全日本小学生選手権大会	男子個人	滋賀県長浜市	384
			男子団体	長浜バイオ大学ドーム	384
			女子個人	長浜市民庭球場	384
			女子団体		384
	小計				1,536
	22～25	全日本高校選手権大会	男子個人	福島県会津若松市 会津総合運動公園テニスコート	636
			男子団体		384
	女子個人		636		
	女子団体		384		
26～29	小計				1,020
8	1～3	第44回全日本レディース(個人戦)	ふじ(初心者)		176
			すみれ(満20歳以上)	愛知県一宮市	46
			ばら(40歳以上)	一宮市テニス場	134
			ゆり(50歳以上)	一宮市総合体育館	114
			きく(55歳以上)	東山公園テニスセンター	174
			あやめ(60歳以上)	名城庭球場	316
			はぎ(65歳以上)	パロマ瑞穂テニスコート	336
			さつき(70歳以上)		262
			さくら(75歳以上)		142
			もも(80歳以上)		80
	小計				1,780
	4～10	全日本学生選手権大会 第71回文部科学大臣杯(大学対抗) 第72回三笠宮賜杯(ダブルス) 第59回全日本学生シングルス選手権大会	男子大学対抗	石川県七尾市 和倉温泉運動公園テニスコート	468
			女子大学対抗	藤波運動公園能都健民テニスコート	390
			男子ダブルス	内浦総合運動公園テニスコート	980
			女子ダブルス		692
男子シングルス				118	
女子シングルス				99	
小計				2,747	
18～20	第48回全国中学校大会	男子個人	長崎県長崎市 長崎市総合運動公園かきどまり庭球場	128	
		女子個人		128	
		男子団体		200	
		女子団体		200	
小計				656	
25～27	第39回全日本レディース決勝大会 (都道府県対抗団体戦)	都道府県対抗	宮城県仙台市 泉庭球場、シェルコムせんだい	528	
9	2・3	第43回全日本社会人選手権大会	一般男子	熊本県熊本市	556
			一般女子	熊本県民総合運動公園テニスコート	188
			成年男子		238
			成年女子		36
			小計		

16・17	第24回JOC杯・全日本ジュニア選手権大会	男子シングルス(U-14)	広島県広島市 広島市中央庭球場	27		
		女子シングルス(U-14)		25		
		男子シングルス(U-17)		33		
		女子シングルス(U-17)		32		
		男子シングルス(U-20)		30		
		女子シングルス(U-20)		27		
		男子ダブルス(U-14)		0		
		女子ダブルス(U-14)		0		
		男子ダブルス(U-17)		0		
		女子ダブルス(U-17)		0		
		男子ダブルス(U-20)		0		
		女子ダブルス(U-20)		0		
		小計			174	
		16・17		日本スポーツマスターズ2017	都道府県対抗	兵庫県神戸市 神戸総合運動公園テニスコート
9	9/29～10/1	第21回全日本シニア選手権大会	男子45	石川県金沢市 西部緑地公園テニスコート 城北市民テニスコート 金沢テニスコート 辰口丘陵公園テニスコート 末広テニスコート	148	
			女子45		88	
			男子50		134	
			女子50		98	
			男子55		136	
			女子55		116	
			男子60		218	
			女子60		162	
9/29～10/1	第21回全日本シニア選手権大会	男子65		206		
		女子65		124		
		男子70		118		
		女子70		94		
		男子75		66		
		女子75		48		
		男子80		32		
		女子80		26		
		混合45		52		
		混合50		70		
		混合55		78		
		混合60		148		
		混合65		118		
		混合70		68		
小計			2,348			
10	6～9	第72回国民体育大会	少年男子	愛媛県大洲市	282	
			少年女子	八幡浜・大洲地区運動公園テニスコート	126	
			成年男子	愛媛県今治市	144	
			成年女子	今治市営スポーツパークテニスコート	96	
小計			648			
20～23	第72回天皇賜杯皇后賜杯 全日本選手権大会	男子	群馬県前橋市	380		
		女子	前橋総合運動公園テニスコート	358		
		小計			738	
27～ 29	第31回日本実業団リーグ	男子団体	広島県広島市	221		
		女子団体	広島翔洋テニスコート	32		
		小計			253	

10	27～ 29	第24回全日本クラブ選手権大会	男子団体	千葉県白子町	1,398
			女子団体	白子町サニーテニスコート他	389
			小計		1,787
11	24～27	第12回ジュニアジャパンカップ	男子シングルス(U-14)	宮崎県宮崎市 生目の杜運動公園テニスコート 久峰総合公園テニスコート	38
			女子シングルス(U-14)		39
			男子シングルス(U-17)		40
			女子シングルス(U-17)		42
			男子シングルス(U-20)		33
			女子シングルス(U-20)		31
			男子ダブルス(U-14)		38
			女子ダブルス(U-14)		40
	24～27	第12回ジュニアジャパンカップ	男子ダブルス(U-17)		40
			女子ダブルス(U-17)		42
			男子ダブルス(U-20)		34
			女子ダブルス(U-20)		30
			小計	447	
	12	15～17	第35回日本リーグ	男子	愛知県豊田市
女子				スカイホール豊田	59
小計				137	
1	29	第62回全日本インドア選手権	男子	大阪府大阪市	24
			女子	大阪市中央体育館	24
			小計		48
2	11・12	日本リーグ入替戦	男子	愛知県名古屋市	32
			女子	露橋スポーツセンター	27
			小計		59
3	26～28	第29回都道府県対抗全日本中学生大会	男子団体	三重県伊勢市 三重県営サンアリーナ 三重交通Gスポーツの杜伊勢体育館 伊勢市営庭球場	384
			女子団体		384
			男子ダブルス		288
			女子ダブルス		288
			男子シングルス		96
			女子シングルス		96
			小計		1,536
	28～30	第43回全日本高等学校選抜大会	男子団体	愛知県名古屋市	576
			女子団体	日本ガイシスポーツプラザ	576
			小計		1,152
	29～31	第17回全国小学生大会	男子6年生の部	千葉県白子町 白子町サニーテニスコート他	84
			女子6年生の部		88
			男子5年生の部		340
女子5年生の部			350		
男子4年生以下の部			340		
女子4年生以下の部			340		
		小計	1,542		

技術等級認定実績

別表2

平成30年3月31日現在

支部名	名誉指導員	Ma	Ex	S-Ex	Sp	S-Sp	1級	2級	3級	4級	合計
1 北海道	0	0	2	0	6	0	13	45	24	0	90
2 青森県	0	0	0	0	3	0	2	8	32	33	78
3 岩手県	0	0	1	0	7	1	10	11	22	0	52
4 宮城県	0	0	6	0	12	0	6	44	29	0	97
5 秋田県	0	0	0	0	5	0	10	8	27	0	50
6 山形県	0	0	0	0	6	0	0	3	79	0	88
7 福島県	0	0	1	0	12	0	5	52	95	0	165
8 茨城県	0	0	2	0	13	0	10	47	28	25	125
9 栃木県	0	0	0	0	3	0	2	48	42	37	132
10 群馬県	0	0	2	0	9	0	2	35	21	142	211
11 埼玉県	0	0	0	1	7	2	31	86	69	62	258
12 千葉県	0	0	1	0	8	0	4	20	26	23	82
13 東京都	0	0	8	0	4	1	20	40	32	30	135
14 神奈川県	0	0	0	0	2	0	13	91	39	0	145
15 山梨県	0	0	0	1	5	0	14	42	39	117	218
16 新潟県	0	0	2	0	3	0	2	21	20	0	48
17 長野県	0	0	0	0	3	0	4	5	35	1,834	1,881
18 富山県	0	0	2	0	7	0	1	11	5	37	63
19 石川県	0	0	0	0	7	1	7	11	34	24	84
20 福井県	0	0	0	0	1	0	0	3	0	35	39
21 静岡県	0	0	0	0	7	0	10	20	33	2	72
22 愛知県	0	0	1	2	10	4	16	83	60	115	291
23 三重県	0	0	2	0	10	0	5	21	22	22	82
24 岐阜県	0	0	0	0	6	1	1	28	44	17	97
25 滋賀県	0	0	0	0	4	0	7	7	32	0	50
26 京都府	0	0	0	0	3	0	1	14	8	22	48
27 大阪府	0	0	3	1	10	1	5	75	24	7	126
28 兵庫県	0	0	2	0	5	0	8	67	13	11	106
29 奈良県	0	0	2	0	13	0	9	4	25	2	55
30 和歌山県	0	0	0	0	11	0	3	1	25	94	134
31 鳥取県	0	0	0	0	2	0	0	4	0	17	23
32 島根県	0	0	0	0	8	0	2	4	3	27	44
33 岡山県	0	0	0	0	6	0	5	12	35	0	58
34 広島県	0	0	5	1	8	0	7	42	36	6	105
35 山口県	0	0	2	0	6	0	13	70	21	0	112
36 徳島県	0	0	3	0	1	0	3	16	23	0	46
37 香川県	0	0	0	0	8	0	3	4	15	26	56
38 愛媛県	0	0	0	3	7	2	3	4	26	35	80
39 高知県	0	0	0	1	0	0	1	4	4	22	32
40 福岡県	0	0	1	0	6	0	2	19	28	4	60
41 佐賀県	0	0	0	0	1	0	3	1	28	0	33
42 長崎県	0	0	0	0	6	0	2	12	44	20	84
43 熊本県	0	0	0	0	6	0	15	91	281	320	713
44 大分県	0	0	2	0	1	0	5	4	4	15	31
45 宮崎県	0	0	0	0	5	0	3	33	58	0	99
46 鹿児島県	0	0	0	1	6	2	13	6	32	0	60
47 沖縄県	0	0	0	0	3	0	0	2	18	0	23
48 日本学連	0	0	17	0	64	0	60	56	0	3	200
合計	0	0	67	11	346	15	361	1,335	1,640	3,186	6,961
前年度	0	0	73	23	335	22	307	1,045	1,551	3,094	6,450

公認審判員認定実績

別表3

平成30年3月31日現在

No	支部	認定者数									合計
		マスター レフェリー	マスター アンパイ ヤー	1級審判員		2級審判員				ジュニア	
				新規	更新	一般		高校			
						新規	更新	新規	移行		
1	北海道	4	2	2	8	119	221	206	645	2,211	3,418
2	青森県	0	0	0	2	65	225	26	66	384	768
3	岩手県	0	0	1	8	113	68	113	549	1,171	2,023
4	宮城県	11	0	2	3	82	431	127	474	1,499	2,629
5	秋田県	0	0	0	7	54	75	63	252	801	1,252
6	山形県	0	0	0	11	100	125	37	273	849	1,395
7	福島県	1	0	3	3	129	123	91	572	2,019	2,941
8	茨城県	0	0	4	6	100	807	119	73	234	1,343
9	栃木県	1	3	3	7	73	436	56	63	147	789
10	群馬県	0	2	0	7	125	308	114	100	323	979
11	埼玉県	7	5	3	6	284	881	433	679	3,214	5,512
12	千葉県	4	0	4	3	126	636	147	707	3,412	5,039
13	東京都	3	28	3	3	242	130	187	50	49	695
14	神奈川県	0	0	1	3	154	114	144	614	6,664	7,694
15	山梨県	0	1	0	2	84	266	49	36	88	526
16	新潟県	0	15	1	2	96	78	93	397	1,967	2,649
17	長野県	0	0	2	5	111	595	219	39	94	1,065
18	富山県	0	0	0	1	37	367	38	0	43	486
19	石川県	0	0	0	4	37	70	60	173	742	1,086
20	福井県	1	1	1	1	31	91	27	21	42	216
21	静岡県	3	5	4	5	152	127	150	482	3,160	4,088
22	愛知県	1	0	1	4	225	1,025	291	30	179	1,756
23	三重県	0	0	4	1	40	305	52	53	67	522
24	岐阜県	1	0	0	5	31	363	37	63	172	672
25	滋賀県	0	0	1	2	37	463	35	25	83	646
26	京都府	1	0	0	1	57	538	67	72	136	872
27	大阪府	0	0	0	1	137	218	213	25	52	646
28	兵庫県	1	0	1	3	174	62	256	13	25	535
29	奈良県	1	0	0	4	73	368	93	28	27	594
30	和歌山県	2	0	0	3	7	10	63	19	139	243
31	鳥取県	4	0	0	7	17	3	54	12	26	123
32	島根県	3	0	2	0	14	249	42	48	73	431
33	岡山県	2	1	2	6	48	990	35	71	159	1,314
34	広島県	1	0	1	5	57	1,006	140	59	74	1,343
35	山口県	0	1	3	4	80	414	107	67	150	826
36	徳島県	0	0	1	3	13	171	8	23	68	287
37	香川県	3	0	3	2	30	248	46	53	94	479
38	愛媛県	0	0	0	7	48	12	99	35	233	434
39	高知県	0	0	0	2	16	118	26	14	27	203
40	福岡県	2	0	1	0	79	439	134	124	354	1,133
41	佐賀県	0	1	0	0	28	20	44	178	857	1,128
42	長崎県	1	0	2	5	157	87	169	292	1,083	1,796
43	熊本県	0	0	0	2	91	39	57	413	1,383	1,985
44	大分県	2	7	0	3	65	139	44	73	633	966
45	宮崎県	0	0	0	1	37	234	42	66	106	486
46	鹿児島県	0	0	5	6	75	134	111	54	117	502
47	沖縄県	0	0	0	0	14	28	65	18	94	219
48	日本学連	0	0	0	0	667	0	661	0	0	1,328
合計		60	72	61	174	4,631	13,857	5,490	8,193	35,524	68,062
前年度		78	62	85	197	4,869	14,405	5,051	8,069	40,171	72,987

会員登録集計表（平成29年度）

別表4

平成30年3月31日現在

支部名	指導者 会員数	一般		小学生		中学生		高校生		高専		大学生		合計	
		団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
北海道	268	177	2,212	36	638	266	7,660	145	3,308	4	109	0	9	628	14,204
青森	313	48	461	18	247	98	3,435	44	908	1	5	1	0	210	5,369
岩手	363	62	1,100	31	478	128	3,778	69	1,880	1	32	0	9	291	7,640
宮城	128	93	1,071	23	523	177	5,289	78	2,555	2	34	2	95	375	9,695
秋田	246	38	514	17	452	76	2,255	39	947	1	3	0	8	171	4,425
山形	172	40	578	20	446	68	2,739	43	1,247	1	3	1	20	173	5,205
福島	455	79	705	29	631	153	6,169	68	1,795	1	47	0	1	330	9,803
茨城	465	69	857	21	680	205	9,295	81	2,370	1	1	0	2	377	13,670
栃木	35	37	747	19	431	125	5,153	51	1,259	0	21	0	25	232	7,671
群馬	239	44	891	23	755	146	6,132	49	1,260	1	8	0	10	263	9,295
埼玉	230	203	3,838	34	1,157	375	18,508	128	4,375	0	1	0	167	740	28,276
千葉	769	109	1,716	22	550	338	16,718	119	3,395	1	18	0	32	589	23,198
東京	166	136	3,070	25	455	203	5,667	179	4,811	1	13	0	131	544	14,313
神奈川	640	89	1,040	17	453	355	19,382	134	3,134	0	0	0	2	595	24,651
山梨	125	51	523	14	352	46	1,015	30	885	0	0	0	19	141	2,919
新潟	219	52	830	26	506	156	4,393	63	1,371	1	20	0	6	298	7,345
長野	172	36	1,385	17	337	120	4,112	66	1,605	1	19	0	5	240	7,635
富山	143	22	349	17	392	62	2,273	28	872	0	0	0	0	129	4,029
石川	47	50	648	22	426	65	3,343	37	1,082	1	9	1	37	176	5,592
福井	38	32	373	6	203	40	1,279	15	551	1	0	0	1	94	2,445
静岡	715	124	1,446	31	920	316	12,871	80	1,559	1	19	2	13	554	17,543
愛知	286	174	3,055	23	831	348	18,504	143	5,563	0	43	0	24	688	28,306
三重	105	51	593	14	337	145	6,131	50	1,401	1	7	0	28	261	8,602
岐阜	60	63	881	26	657	254	6,529	49	1,892	0	0	0	10	392	10,029
滋賀	95	31	509	12	378	71	940	42	1,471	0	0	0	11	156	3,404
京都	128	86	775	17	386	93	2,915	55	1,692	0	0	0	6	251	5,902
大阪	322	91	1,602	10	232	311	11,649	190	3,321	0	0	0	6	602	17,132
兵庫	249	83	1,402	21	404	304	15,779	148	5,038	2	31	0	0	558	22,903
奈良	126	31	846	9	170	65	2,627	29	967	0	0	0	2	134	4,738
和歌山	163	52	645	19	410	102	3,175	29	924	1	33	0	0	203	5,350
鳥取	73	37	384	11	161	34	1,057	22	579	1	11	0	1	105	2,266
島根	86	49	380	13	271	47	1,685	41	865	1	0	0	0	151	3,287
岡山	149	62	592	12	274	135	5,894	67	2,190	1	39	1	10	278	9,148
広島	296	123	1,325	15	273	153	5,524	97	2,806	2	61	0	81	390	10,366
山口	157	71	1,209	9	301	106	4,642	52	1,597	3	84	1	64	242	8,054
徳島	144	24	329	9	180	94	2,138	24	515	1	32	0	0	152	3,338
香川	39	28	382	10	250	51	2,374	29	788	2	21	0	0	120	3,854
愛媛	146	38	610	12	246	130	4,283	61	1,344	1	93	0	3	242	6,725
高知	60	27	344	11	165	32	886	22	532	1	8	0	9	93	2,004
福岡	582	75	1,076	17	365	194	7,301	142	2,832	4	85	1	44	433	12,285
佐賀	232	26	352	15	340	73	2,681	41	890	0	0	0	5	155	4,500
長崎	459	59	908	16	305	146	4,228	101	1,982	2	29	0	67	324	7,978
熊本	460	62	792	18	358	139	4,372	61	1,559	2	34	1	7	283	7,582
大分	212	56	560	13	214	101	2,337	27	723	0	21	0	48	197	4,115
宮崎	286	56	487	23	495	156	3,154	40	923	1	19	0	1	276	5,365
鹿児島	342	115	1,068	39	419	180	4,591	76	1,309	2	36	1	39	413	7,804
沖縄	72	43	674	10	114	47	1,145	27	297	0	1	1	24	128	2,327
日本学連	1	0	9	0	0	0	0	0	7	1	19	430	6,794	431	6,830
合計	11,278	3,204	46,143	872	19,568	7,029	268,007	3,211	85,176	49	1,069	443	7,876	14,808	439,117
昨年度	11,073	3,199	46,346	853	19,728	7,079	280,857	3,213	85,632	48	1,037	445	7,945	14,837	452,618

財務諸表等

(1) 貸借対照表

平成30年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	94,426,806	87,153,366	7,273,440
未収金	49,464,631	45,863,280	3,601,351
貯蔵品	10,560,243	11,563,564	△ 1,003,321
流動資産合計	154,451,680	144,580,210	9,871,470
2. 固定資産			
(1)基本財産	150,000,000	150,000,000	0
定期預金	48,564,000	150,000,000	△ 101,436,000
投資有価証券	101,436,000	0	101,436,000
基本財産合計	150,000,000	150,000,000	0
(2)特定資産	276,897,096	223,897,096	53,000,000
退職給付引当資産	16,897,096	15,397,096	1,500,000
資産取得資金積立金	130,000,000	100,000,000	30,000,000
国際大会積立金	130,000,000	108,500,000	21,500,000
特定資産合計	276,897,096	223,897,096	53,000,000
(3)その他固定資産	141,539,745	143,145,937	△ 1,606,192
建物及び付属設備	79,789,713	81,381,087	△ 1,591,374
器具備品	166,704	181,522	△ 14,818
土地	61,583,328	61,583,328	0
その他固定資産	141,539,745	143,145,937	△ 1,606,192
固定資産合計	568,436,841	517,043,033	51,393,808
資産合計	722,888,521	661,623,243	61,265,278
II 負債の部			
1. 流動負債	8,915,672	3,347,257	5,568,415
未払金	6,039,359	1,682,220	4,357,139
預り金	546,116	171,670	374,446
前受金	220,000	0	220,000
賞与引当金	2,110,197	1,493,367	616,830
流動負債合計	8,915,672	3,347,257	5,568,415
2. 固定負債	19,738,676	16,223,913	3,514,763
退職給付引当金	19,738,676	16,223,913	3,514,763
固定負債合計	19,738,676	16,223,913	3,514,763
負債合計	28,654,348	19,571,170	9,083,178
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産	694,234,173	642,052,073	52,182,100
(うち基本財産への充当額)	(150,000,000)	(150,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(260,000,000)	(208,500,000)	(51,500,000)
正味財産合計	694,234,173	642,052,073	52,182,100
負債及び正味財産合計	722,888,521	661,623,243	61,265,278

(2) 正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

単位:円

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用収入	65,729	1,161,611	△ 1,095,882
会費収入	294,549,000	300,098,500	△ 5,549,500
事業収入	156,690,748	161,498,098	△ 4,807,350
補助金等収入	88,356,485	85,601,354	2,755,131
協賛金寄付金収入	35,300,000	45,250,000	△ 9,950,000
雑収入	5,744,537	4,824,279	920,258
経常収益計	580,706,499	598,433,842	△ 17,727,343
(2) 経常費用			
事業費	219,126,778	249,441,698	△ 30,314,920
管理費	116,288,972	115,196,079	1,092,893
加盟費	734,876	1,075,603	△ 340,727
競技力向上費	157,820,616	166,947,080	△ 9,126,464
指導者育成事業費	5,258,202	5,903,360	△ 645,158
大会開催等関係費	21,807,767	22,143,596	△ 335,829
スポーツマスターズ参加支援費	5,880,996	4,072,680	1,808,316
減価償却費	1,606,192	1,606,192	0
経常費用計	528,524,399	566,386,288	△ 37,861,889
評価損益等調整前当期経常増減額	52,182,100	32,047,554	20,134,546
基本財産評価損益等	0	△ 3,363,946	3,363,946
特定資産評価損益等	0	△ 68,010	68,010
投資有価証券評価損益等	0	△ 44,930	44,930
評価損益等 計	0	△ 3,476,886	3,476,886
当期経常増減額	52,182,100	28,570,668	23,611,432
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	52,182,100	28,570,668	23,611,432
一般正味財産期首残高	642,052,073	613,481,405	28,570,668
一般正味財産期末残高	694,234,173	642,052,073	52,182,100
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	694,234,173	642,052,073	52,182,100

(3)正味財産増減計算書内訳表
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:円)

区 分	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1). 経常収益			
基本財産運用収入	65,729		65,729
会費収入	213,253,209	81,295,791	294,549,000
事業収入	156,690,748		156,690,748
補助金等収入	88,356,485		88,356,485
協賛金寄付金収入	35,300,000		35,300,000
雑収入	5,744,537		5,744,537
経常収益計	499,410,708	81,295,791	580,706,499
(2). 経常費用			
事業費	447,228,608	0	447,228,608
役員報酬	1,830,000	0	1,830,000
給料	12,114,546	0	12,114,546
職員手当等	6,209,362	0	6,209,362
退職給付費用	2,144,005	0	2,144,005
福利厚生費	1,791,632	0	1,791,632
賞与引当金繰入	1,287,220	0	1,287,220
旅費交通費	111,346,096	0	111,346,096
通信運搬費	6,153,359	0	6,153,359
支払手数料	3,845,749	0	3,845,749
減価償却費	979,777	0	979,777
会議費	12,035,602	0	12,035,602
備品購入費	176,229	0	176,229
消耗品費	19,248,543	0	19,248,543
印刷製本費	20,218,293	0	20,218,293
光熱水費	1,208,280	0	1,208,280
賃借料	13,507,996	0	13,507,996
保険料	1,951,474	0	1,951,474
諸謝金	4,663,376	0	4,663,376
報償費	6,312,656	0	6,312,656
租税公課	2,888,490	0	2,888,490
支払負担金	55,310,076	0	55,310,076
支払助成金	125,570,599	0	125,570,599
委託費	32,187,028	0	32,187,028
渉外交際費	624,780	0	624,780
雑費	3,623,440	0	3,623,440

区 分	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	81,295,791	81,295,791
役員報酬	0	1,170,000	1,170,000
給料	0	7,745,366	7,745,366
職員手当等	0	3,969,921	3,969,921
退職給付費用	0	1,370,758	1,370,758
福利厚生費	0	1,145,470	1,145,470
賞与引当金繰入	0	822,977	822,977
旅費交通費	0	3,443,694	3,443,694
通信運搬費	0	7,223,509	7,223,509
支払手数料	0	13,634,930	13,634,930
減価償却費	0	626,415	626,415
会議費	0	9,079,490	9,079,490
備品購入費	0	112,671	112,671
消耗品費	0	802,023	802,023
印刷製本費	0	1,521,808	1,521,808
光熱水費	0	772,508	772,508
賃借料	0	0	0
保険料	0	685,654	685,654
諸謝金	0	0	0
報償費	0	0	0
租税公課	0	1,846,740	1,846,740
支払負担金	0	0	0
支払助成金	0	0	0
委託費	0	24,281,443	24,281,443
渉外交際費	0	77,221	77,221
雑費	0	963,193	963,193
経常費用計	447,228,608	81,295,791	528,524,399
当期経常増減額	52,182,100	0	52,182,100
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	52,182,100	0	52,182,100
一般正味財産期首残高	236,371,599	405,680,474	642,052,073
一般正味財産期末残高	288,553,699	405,680,474	694,234,173
II 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
当期指定正味財産期首残高	0	0	0
当期指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	288,553,699	405,680,474	694,234,173

(4) 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)によっている。
但し、取得価額と債券金額との差額について重要性が乏しい場合は、償却原価法を適用していない。
- ② その他の有価証券……期末日の市場価額等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 貯蔵品……個別法による原価法によっている。

(3) 有形固定資産の減価償却の方法

法人税法で規定する定額法によっている。

(4) 引当金の計上基準

- ① 退職給付引当金……職員の退職給付に備えるため、退職給与の当期末要支給額に相当する金額を計上している。
- ② 賞与引当金……職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産・特定資産の増減額及びその残高は、次の通りである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	150,000,000	0	101,436,000	48,564,000
投資有価証券	0	101,436,000	0	101,436,000
小計	150,000,000	101,436,000	101,436,000	150,000,000
特定資産				
退職給付引当資産				
定期預金	15,397,096	1,500,000	0	16,897,096
有価証券	0	0	0	0
資産取得資金積立金	100,000,000	30,000,000	0	130,000,000
国際大会積立金	108,500,000	21,500,000	0	130,000,000
小計	223,897,096	53,000,000	0	276,897,096
合計	373,897,096	154,436,000	101,436,000	426,897,096

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	48,564,000		(48,564,000)	
投資有価証券	101,436,000		(101,436,000)	
小計	150,000,000		(150,000,000)	
特定資産				
退職給付引当資産	16,897,096			(16,897,096)
資産取得資金積立金	130,000,000		(130,000,000)	
国際大会積立金	130,000,000		(130,000,000)	
小計	276,897,096		(260,000,000)	(16,897,096)
合計	426,897,096		(410,000,000)	(16,897,096)

4. 担保に供している資産

該当事項なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行なっている)

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物及び附属設備	88,409,655	8,619,942	79,789,713
什器備品	798,215	631,511	166,704
合計	89,207,870	9,251,453	79,956,417

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

(単位:円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収入金	49,464,631	0	49,464,631
合計	49,464,631	0	49,464,631

7. 保証債務等の偶発債務

該当事項なし

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りである。

(単位:円)

科目	内訳	帳簿価額	時価	評価損益
投資有価証券	第163回利付国債(20年)	101,436,000	101,612,200	176,200
合計		101,436,000	101,612,200	176,200

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次の通りである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
日本スポーツマスターズ委託金交付金	(公財)日本体育協会	0	1,430,340	1,430,340	0	一般正味財産
公認コーチ養成講習会委託金	同上	0	0	0	0	〃
スポーツ指導者育成事業交付金	同上		636,985	636,985	0	〃
スポーツ振興基金助成金	(独法)日本スポーツ振興センター	0	3,890,000	3,890,000	0	〃
スポーツ振興くじ助成金	同上	0	55,211,000	55,211,000	0	〃
29年度選手強化委託金	(公財)日本オリンピック委員会	0	14,630,000	14,630,000	0	〃
29年度JOCジュニア強化交付金	同上	0	200,000	200,000	0	〃
マーケティングプログラム交付金	同上	0	9,665,000	9,665,000	0	〃
国民体育大会役員旅費	希望郷いわて国体実行委員会	0	943,160	943,160	0	〃
全日本若手キャンプ助成金	(公財)ヨネックススポーツ振興財団	0	750,000	750,000	0	〃
ジュニア育成に対する助成金	(公財)ミズノスポーツ振興財団	0	1,000,000	1,000,000	0	〃
合計		0	88,356,485	88,356,485	0	-

10. 重要な後発事象

該当事項なし

(5) 附属明細書

1. 基本財産および特定資産

基本財産および特定資産の明細については、財務諸表の注記において記載している。

2. 引当金の明細

引当金の当期の増減額および残高は、次の通りである。

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	1,493,367	2,110,197	1,493,367	0	2,110,197
退職給付引当金	16,223,913	3,514,763	0	0	19,738,676

3. その他貸借対照表及び正味財産増減計算書の内容を補足する重要な事項

該当事項はない。

(6) 財産目録

(平成30年3月31日現在)

単位：円

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金	現金手許有高	運転資金として	135,786	
	普通預金	三菱東京UFJ銀行 大井町支店	同上	32,565	
		三菱東京UFJ銀行 渋谷中央支店	同上	66,537,019	
		静岡銀行 大井町支店	同上	8,587,677	
		青梅信用金庫 本店	同上	116,370	
		枚方信用金庫 本店	同上	145,602	
		芝信用金庫 大井支店	同上	12,283	
	定期預金	三菱東京UFJ銀行 大井町支店	同上	9,979,932	
		静岡銀行 大井町支店	同上	8,627,080	
	郵便振替	ゆうちょ銀行	同上	252,492	
			(現金預金計)	94,426,806	
未収金	スポーツ振興センター他	公益目的事業・受取補助金他 未収分として	37,233,560		
	イーコンテクト他	公益目的事業・審判、技術等級 認定料他未収分として	12,231,071		
貯蔵品	明宏印刷株式会社他	公益目的事業・審判、技術等級 認定用教材、用品として	(未収金計)	49,464,631	
			(貯蔵品計)	10,560,243	
流動資産合計				154,451,680	
(固定資産)	基本財産	三菱東京UFJ銀行 大井町支店 静岡銀行 大井町支店 青梅信用金庫 本店 枚方信用金庫 本店 芝信用金庫 大井町支店	公益目的保有財産であり運用益 を公益目的事業の財源に充当	10,000,000	
				8,564,000	
				10,000,000	
				10,000,000	
				10,000,000	
	特定資産	投資有価証券	第163回利付国債(20年)	公益目的保有財産であり運用益 を公益目的事業の財源に充当 (基本財産計)	101,436,000
					150,000,000
					16,897,096
	その他固定資産	退職給付引当資産	定期預金・三菱東京UFJ銀行 大井町支店	職員の退職金支出のため保有。 公益目的事業と運営管理業務 の財源に使用	130,000,000
					130,000,000
		資産取得資金積立金	定期預金 三菱東京UFJ銀行、静岡銀行	資産取得用積立であり、運用益を公益 目的事業の財源に充当	276,897,096
276,897,096					
その他固定資産	建物及び付属設備	ブリリア大井町ラヴィアンタワー 鉄筋コンクリート造2階 東京都品川区大井1-16-2-201 149.79平米	公益目的事業と運営管理目的 に使用する財産	79,789,713	
				166,702	
	器具備品	ブリリア大井町ラヴィアンタワー内ラック	公益目的事業と運営管理目的 に使用する財産	2	
				61,583,328	
土地	スピードラップ・超音波治療器 ブリリア大井町ラヴィアンタワー用地 東京都品川区大井1-16-2-201 共有持分 24.86平米	全て公益目的事業のため使用 公益目的事業と運営管理目的 に使用する財産	141,539,745		
			141,539,745		
固定資産合計				568,436,841	
資産合計				722,888,521	
(流動負債)	未払金	品川税務署他 ユインチホテル南城他	公益目的事業と運営管理業務 に関する消費税等の未払分として 公益目的事業・運営管理業務に関する 手数料他未払分として (未払金計)	4,912,990	
				1,126,369	
				6,039,359	
	預り金 前受金 賞与引当金	品川税務署 アジア代表予選会 職員分	源泉徴収税他預り分として 大会参加料として 公益目的事業と運営管理業務 に従事する職員の賞与として	546,116	
				2,110,197	
流動負債合計				8,915,672	
(固定負債)	退職給付引当金	職員分	公益目的事業と運営管理業務 に従事する職員の退職給付金として	19,738,676	
固定負債合計				19,738,676	
負債合計				28,654,348	
正味財産				694,234,173	

独立監査人の監査報告書

平成 30 年 5 月 16 日

公益財団法人日本ソフトテニス連盟

会長 安道 光二 殿

櫻井公認会計士事務所

公認会計士

櫻井 悦


<財務諸表監査>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本ソフトテニス連盟の平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年事業年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5（1）の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本ソフトテニス連盟の平成30年3月31日現在の平成29年事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益財団法人日本ソフトテニス連盟と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。



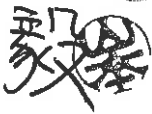
以上

平成 30 年 5 月 17 日

監 査 報 告 書

公益財団法人日本ソフトテニス連盟
会 長 安道 光二 殿

公益財団法人日本ソフトテニス連盟

監事 井上 清一 
監事 萬 正一 
監事 山本 毅 

私たち監事は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

- (1) 各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。
- (2) 当該事業年度に係る事業報告及び会計帳簿及び財務諸表(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書ならびに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表及び附属明細書ならびに財産目録の監査結果

財務諸表及び附属明細書ならびに財産目録の監査結果は、法人の財産および損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上